

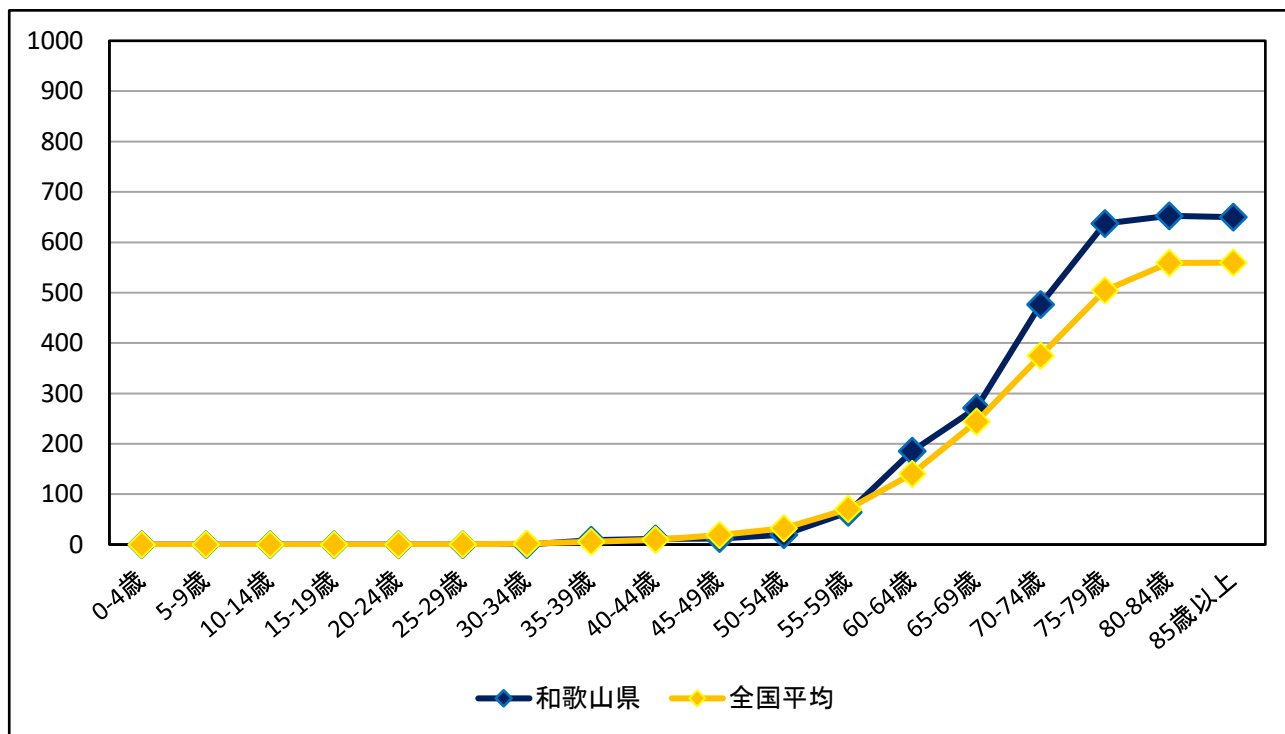
年齢階級別罹患率（人口 10 万対）：部位別、性別（主要部位）

（和歌山県と全国平均との比較）男性

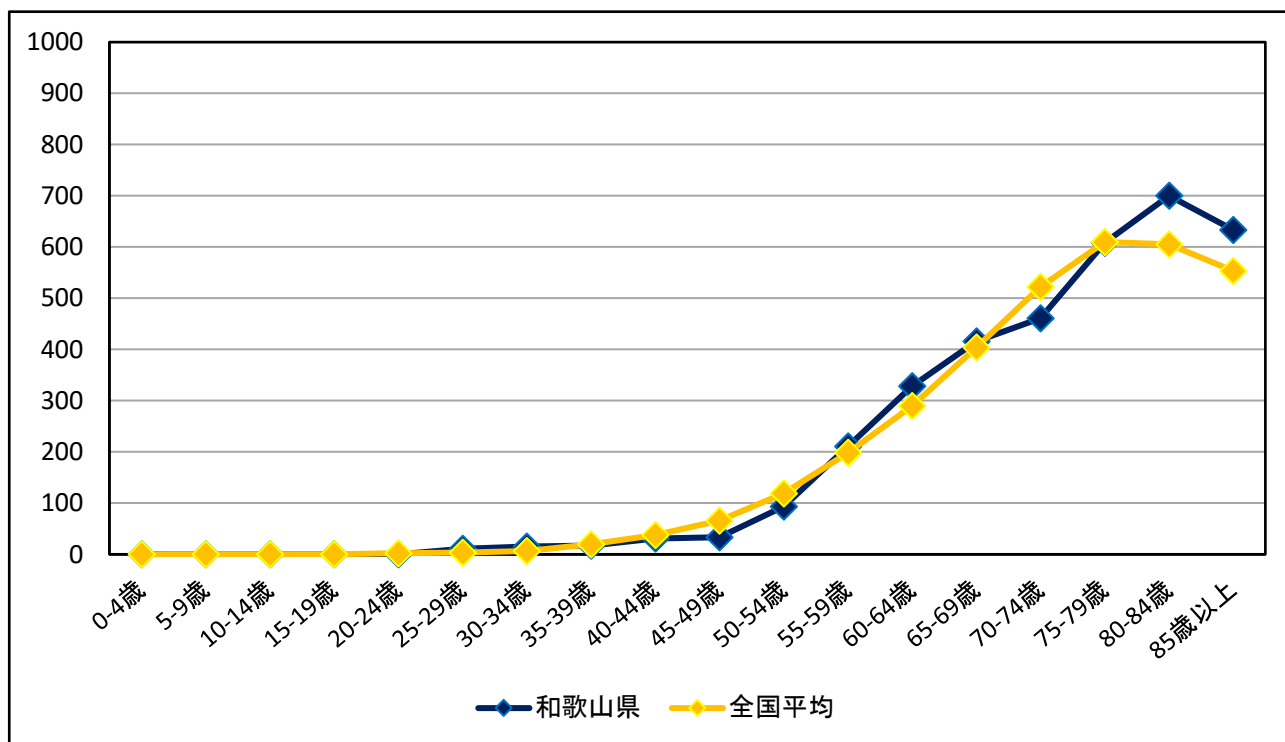
※和歌山県の数字は、標準集計表の表 3-2-A、3-2-B から作成

本県の罹患率は、全国平均と比べ、胃がんは 70 代以上で顕著に高くなっており、その他の部位においても顕著に高い年齢階級がある。

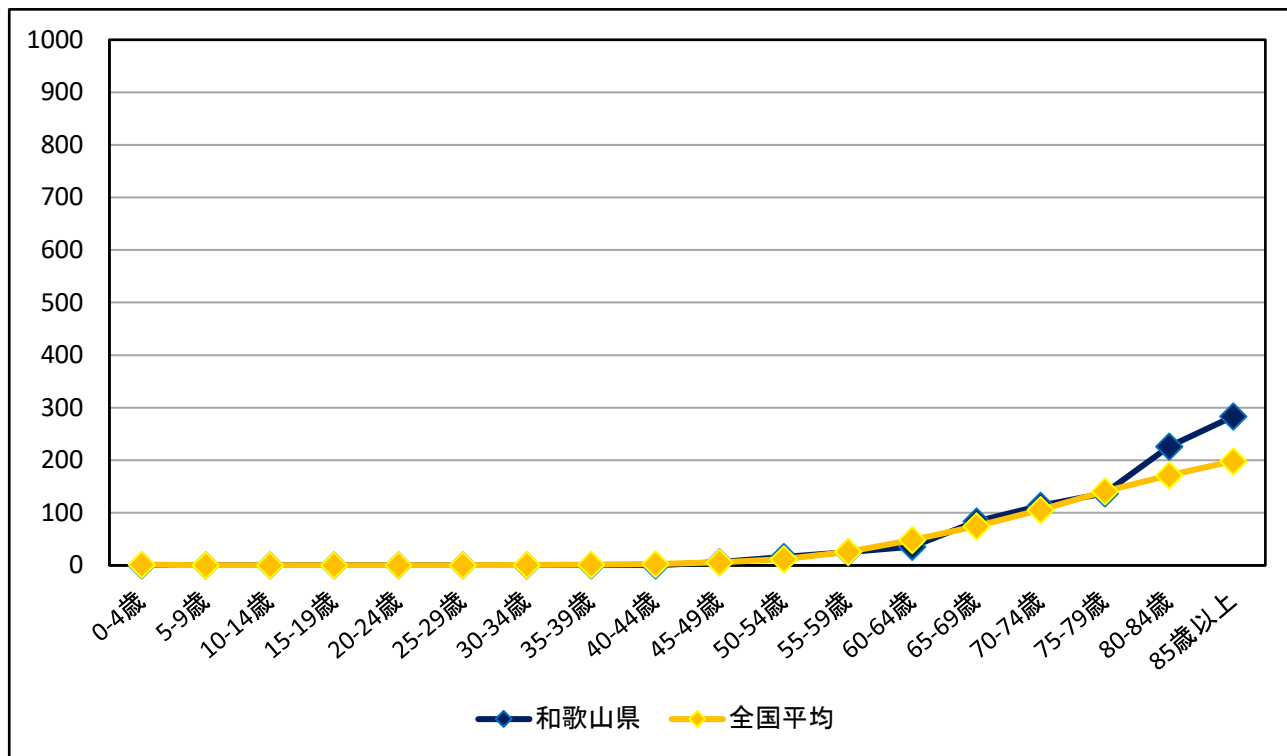
① 胃



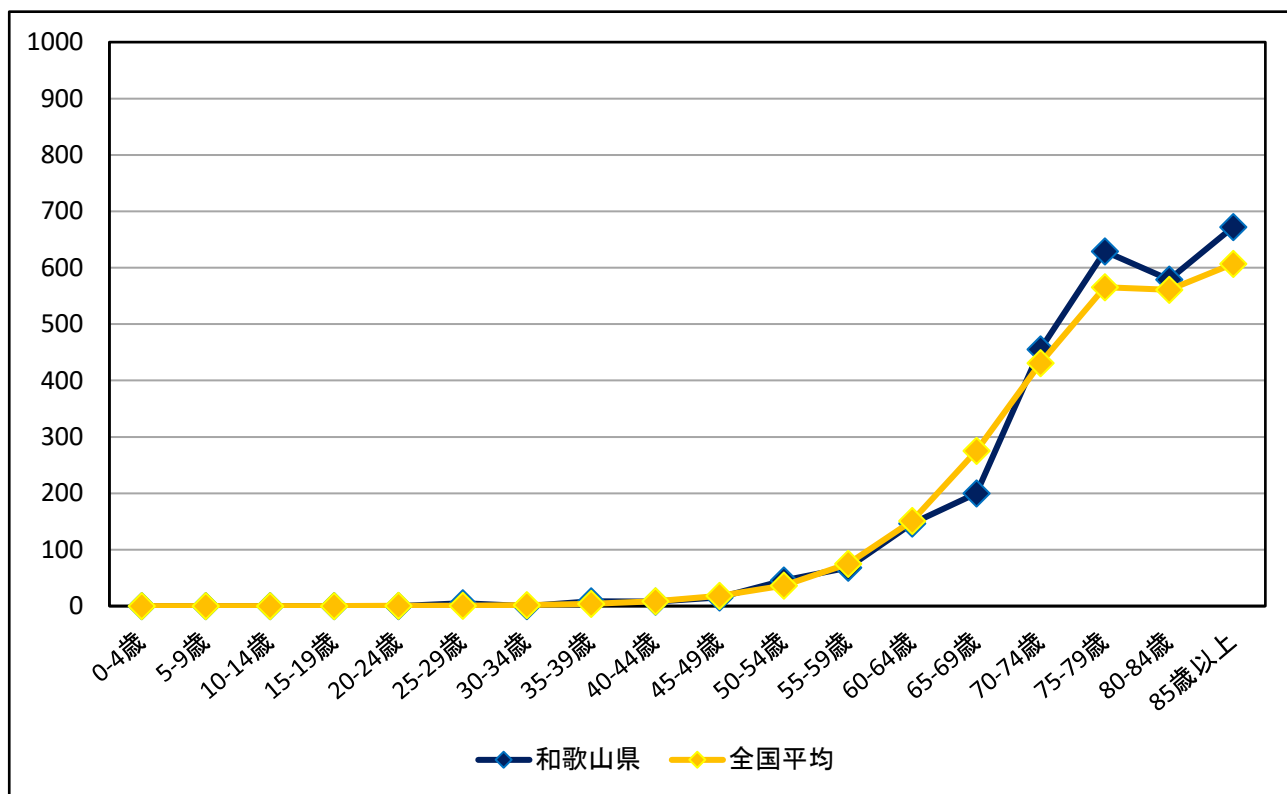
② 大腸（結腸・直腸）



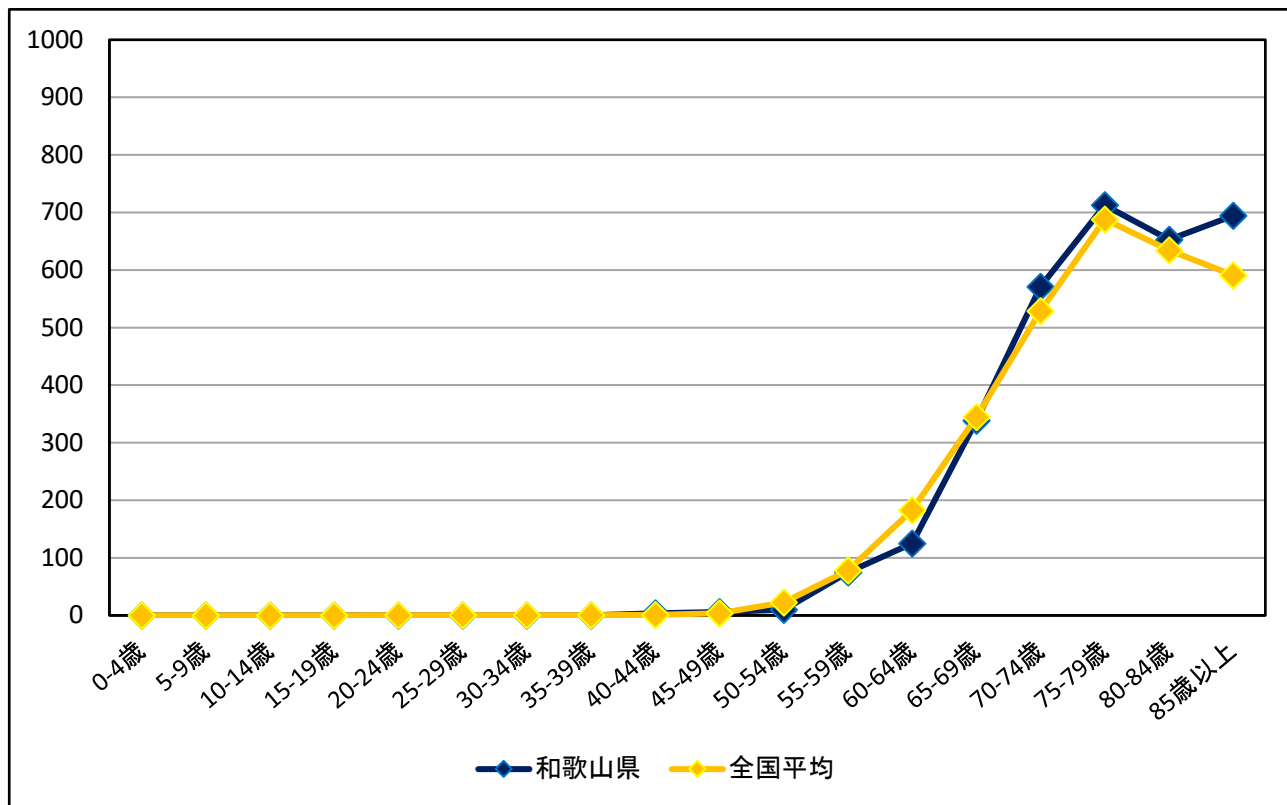
③ 肝および肝内胆管



④ 肺



⑤ 前立腺

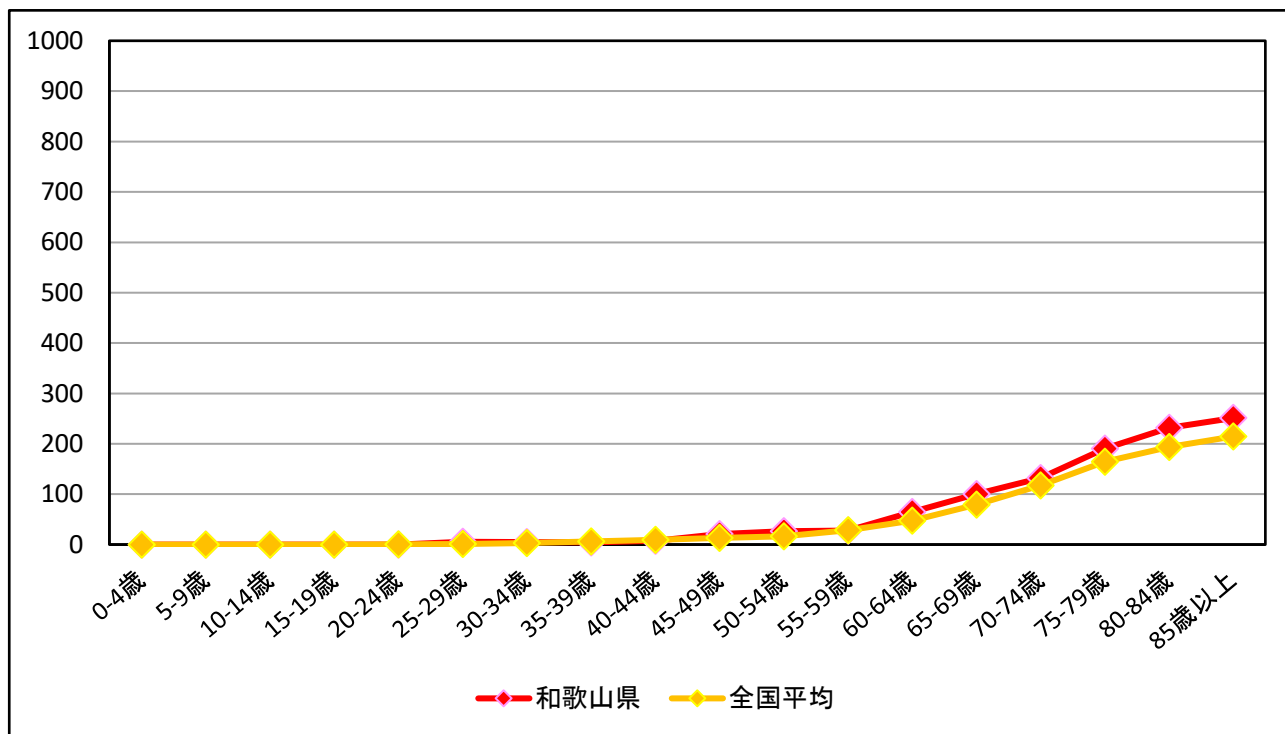


年齢階級別罹患率（人口 10 万対）：部位別、性別（主要部位）

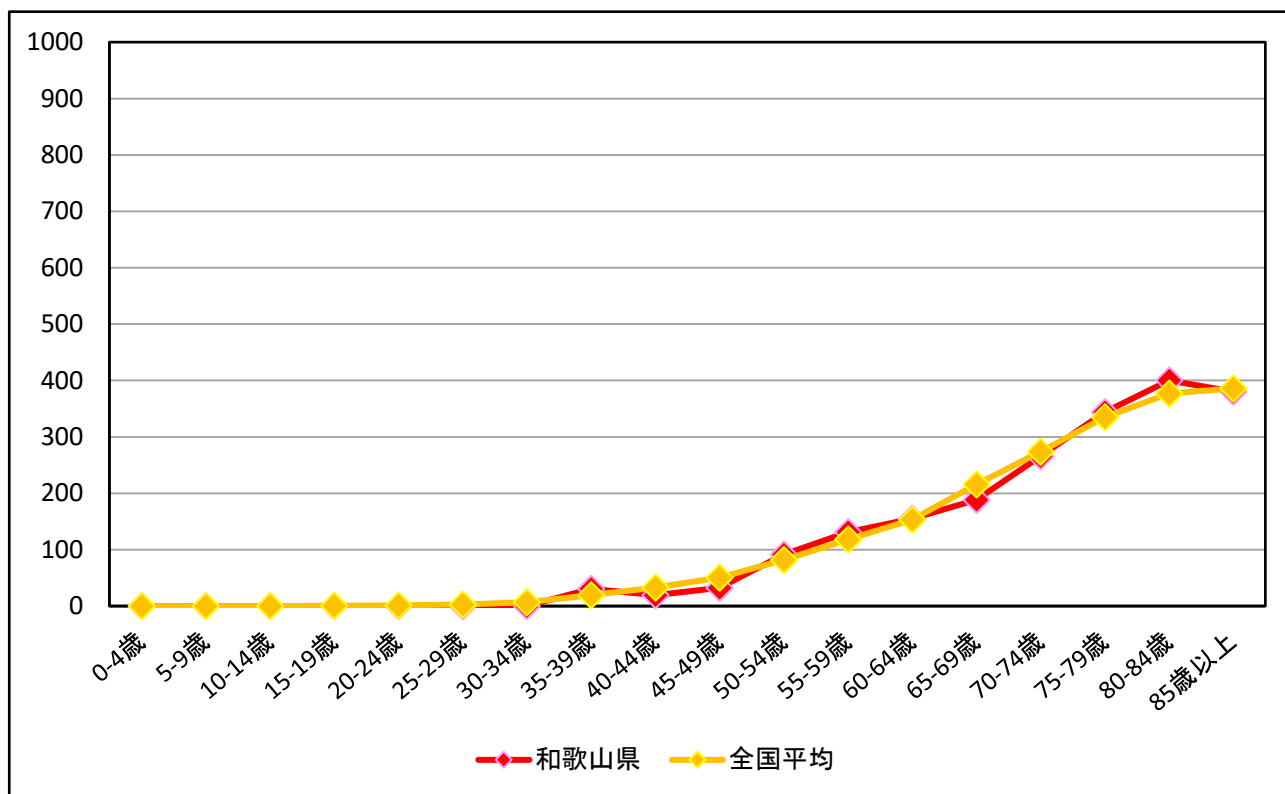
（和歌山県と全国平均との比較）女性 ※和歌山県の数字は、標準集計表の表 3-2-A、3-2-B から作成

本県の罹患率は全国平均と近いが、胃がん、子宮頸がんについては、全国平均より高い年齢階級が見られる。

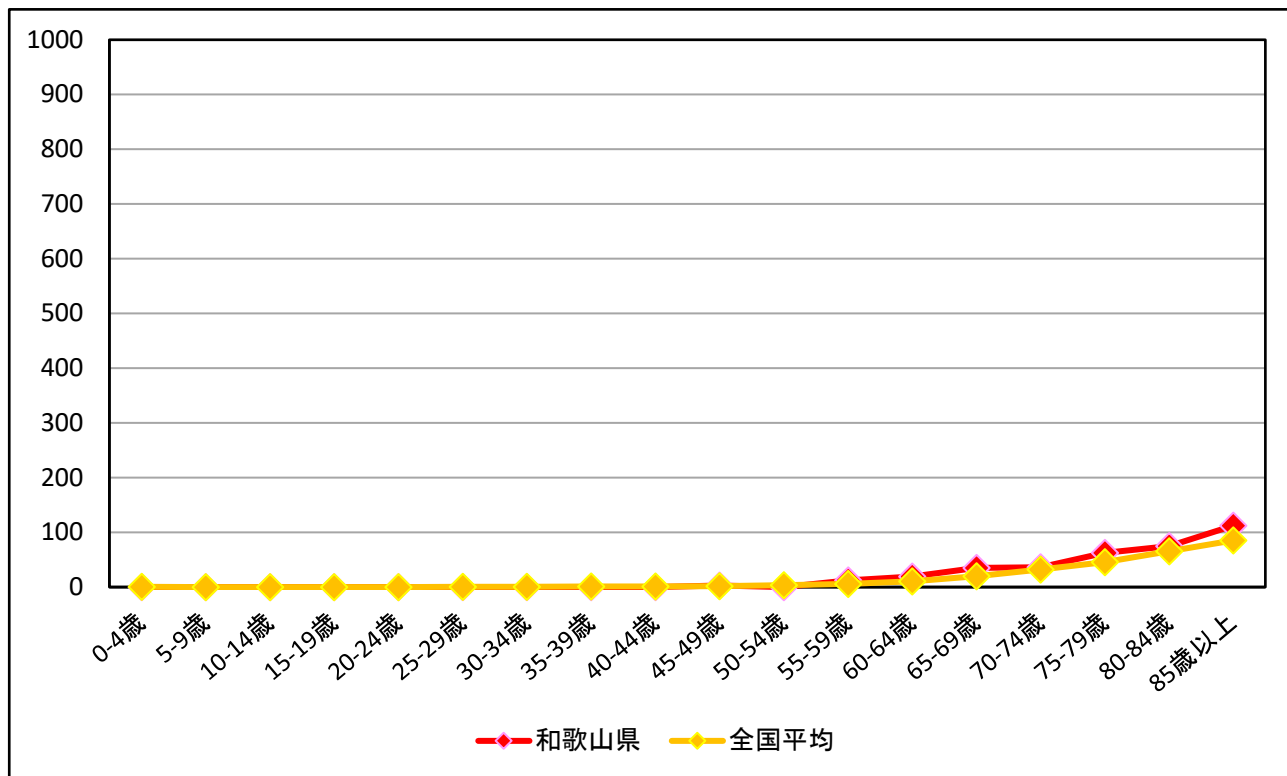
① 胃



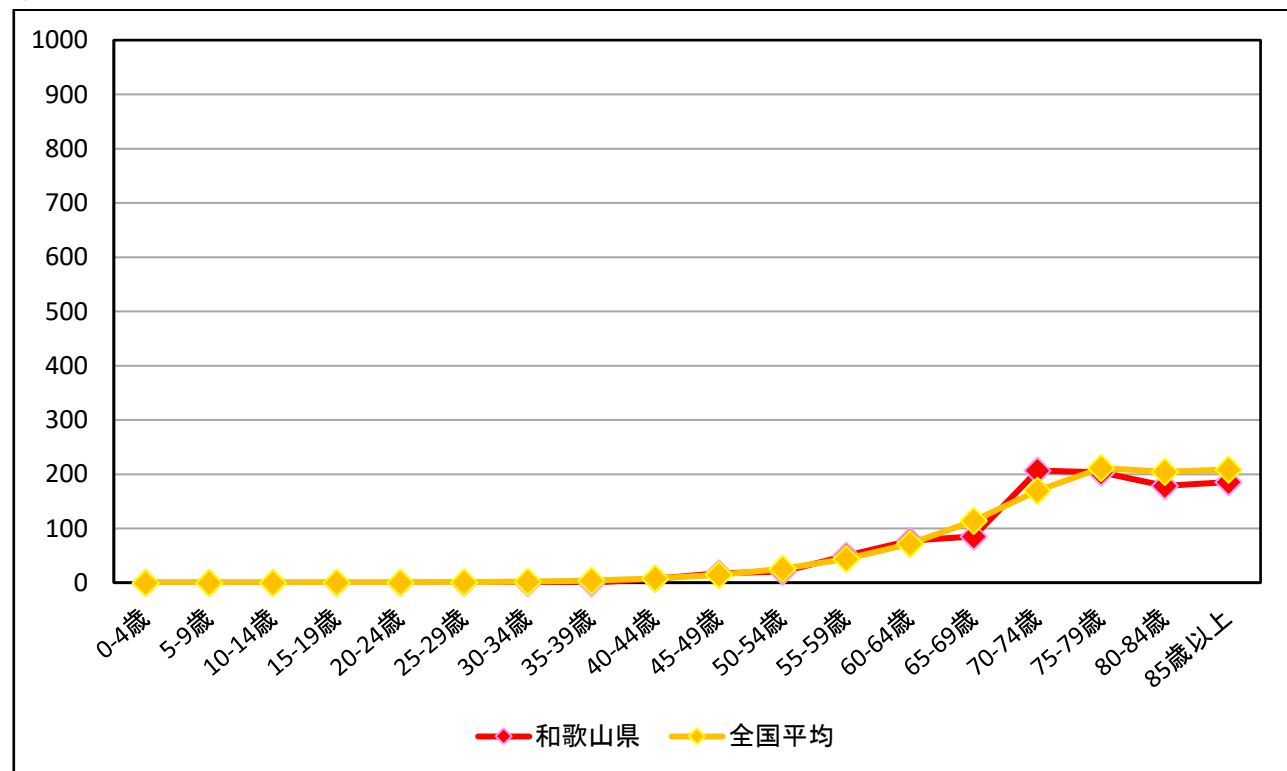
② 大腸（結腸・直腸）



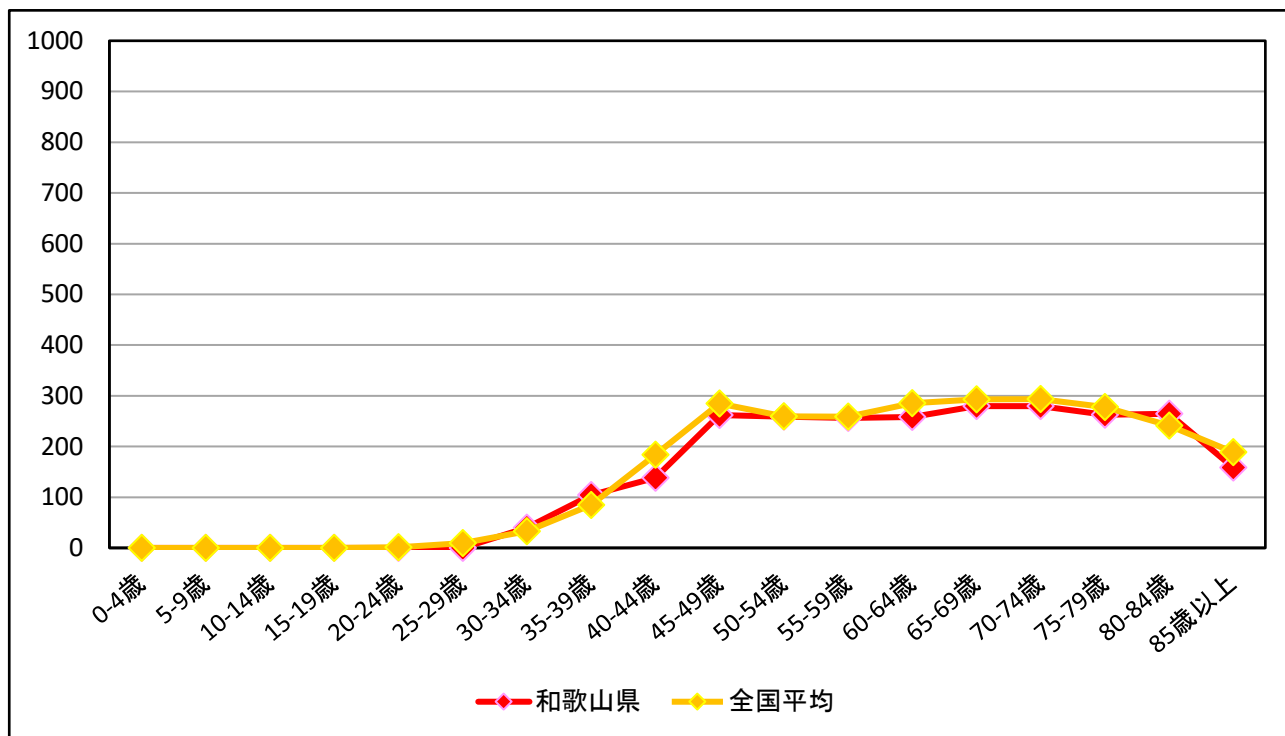
③ 肝および肝内胆管



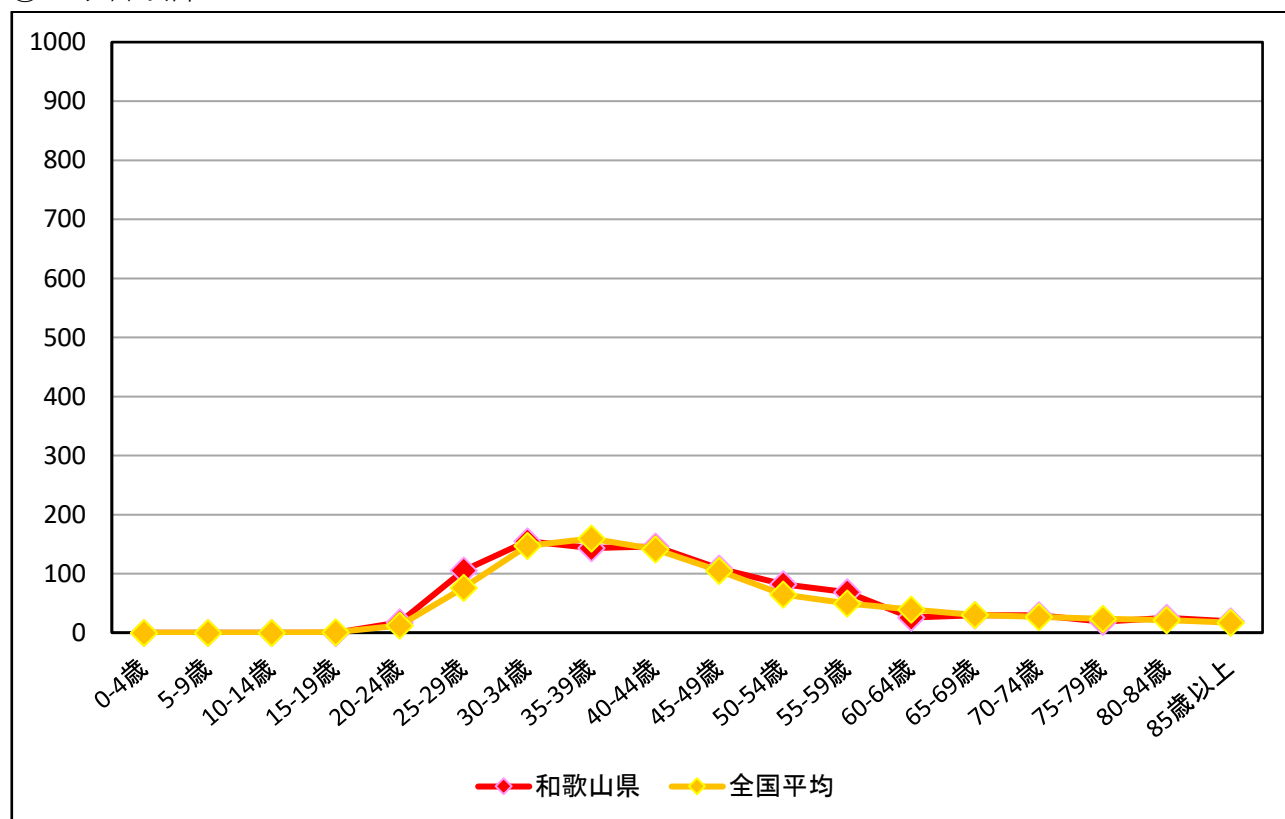
④ 肺



⑤ 乳房



⑥ 子宮頸部

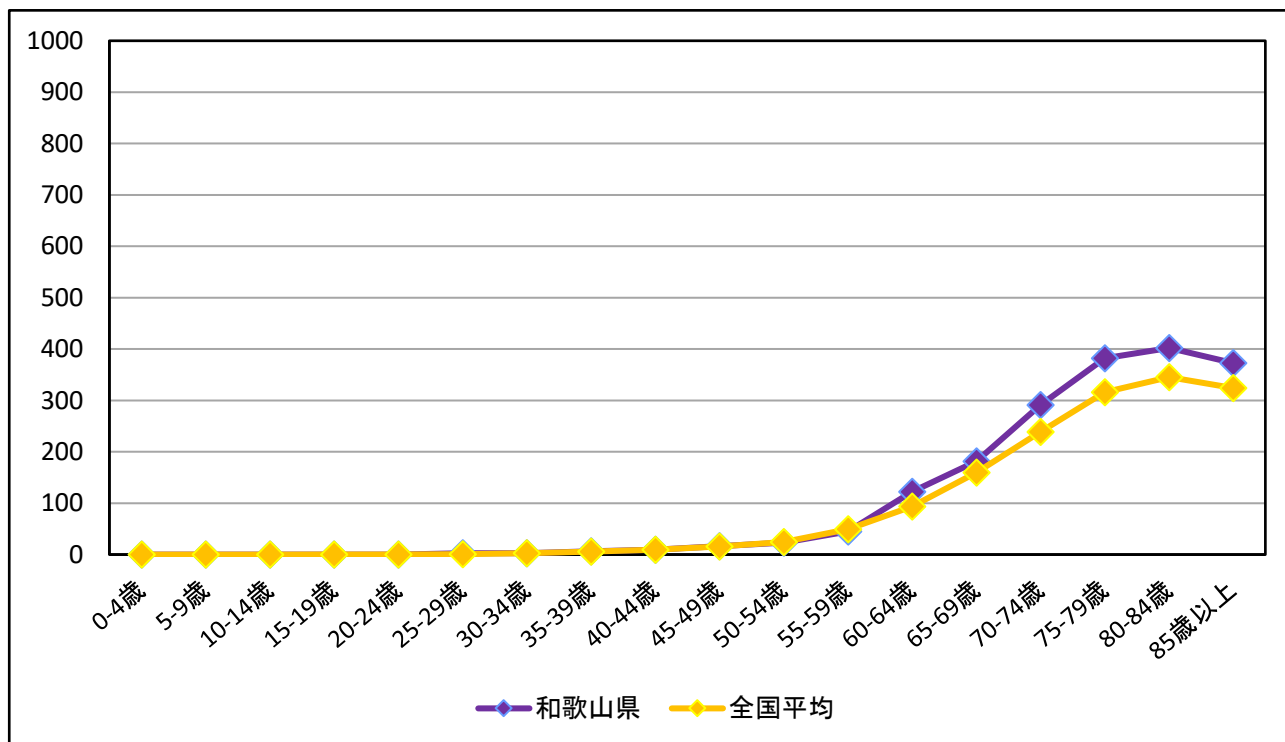


年齢階級別罹患率（人口 10 万対）：部位別、性別（主要部位）

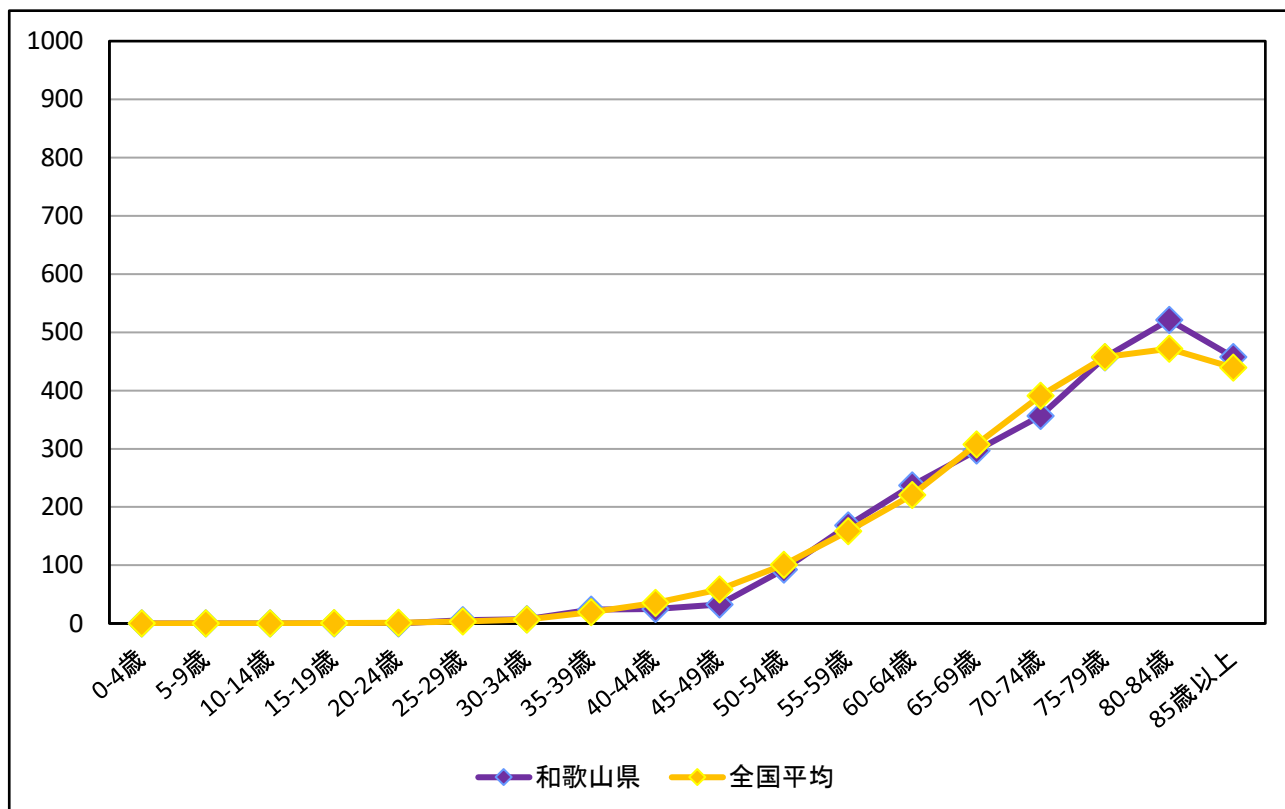
（和歌山県と全国平均との比較）男女計 ※和歌山県の数字は、標準集計表の表 3-2-A、3-2-B から作成

60 歳以上の年齢階級で、胃がんの罹患率が全国平均より高く、大腸（結腸・直腸）がん、肝および肝内胆管がんでも全国平均より高い年齢階級がある。

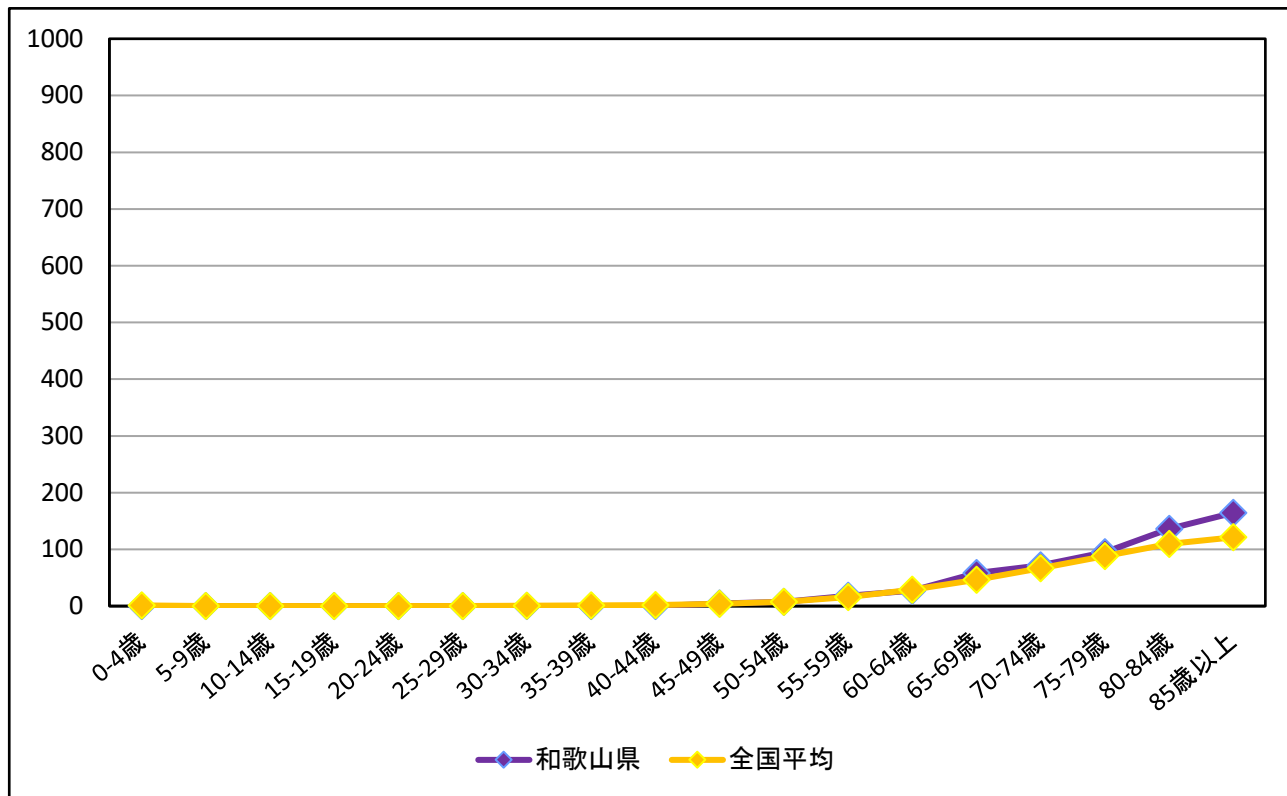
① 胃



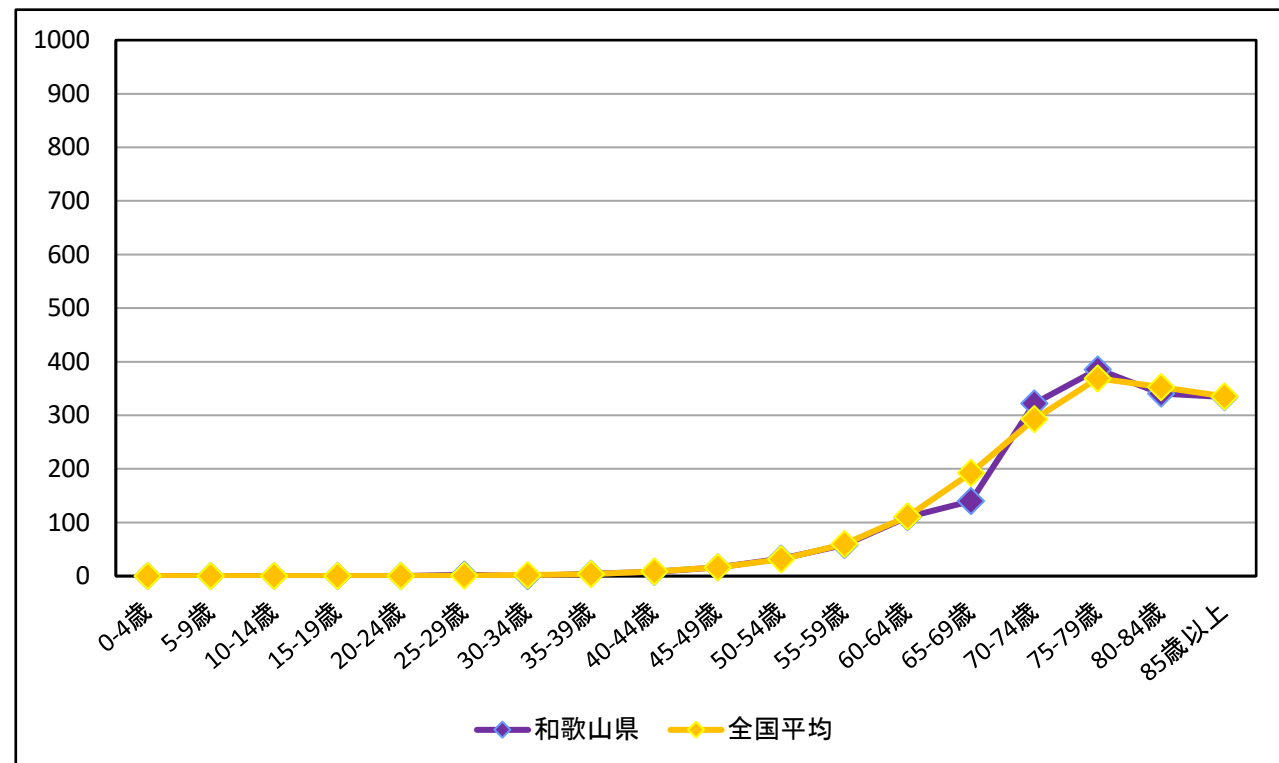
② 大腸（結腸・直腸）



③ 肝および肝内胆管

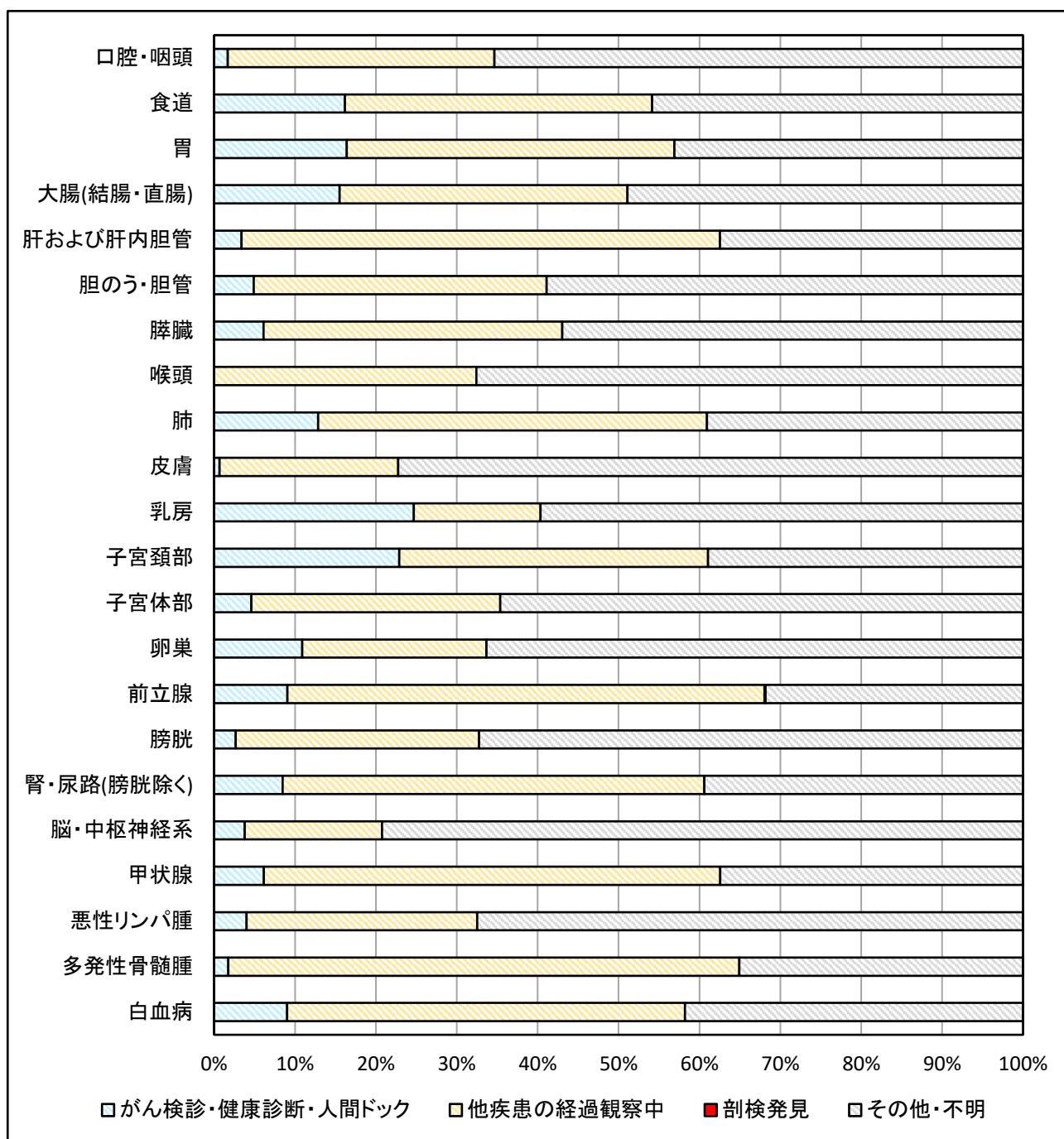


④ 肺



発見経緯（％）部位別

【和歌山県の状況】



乳がん、子宮頸がんでは、がん検診・健康診断・人間ドックによる発見が20%以上を占めている。

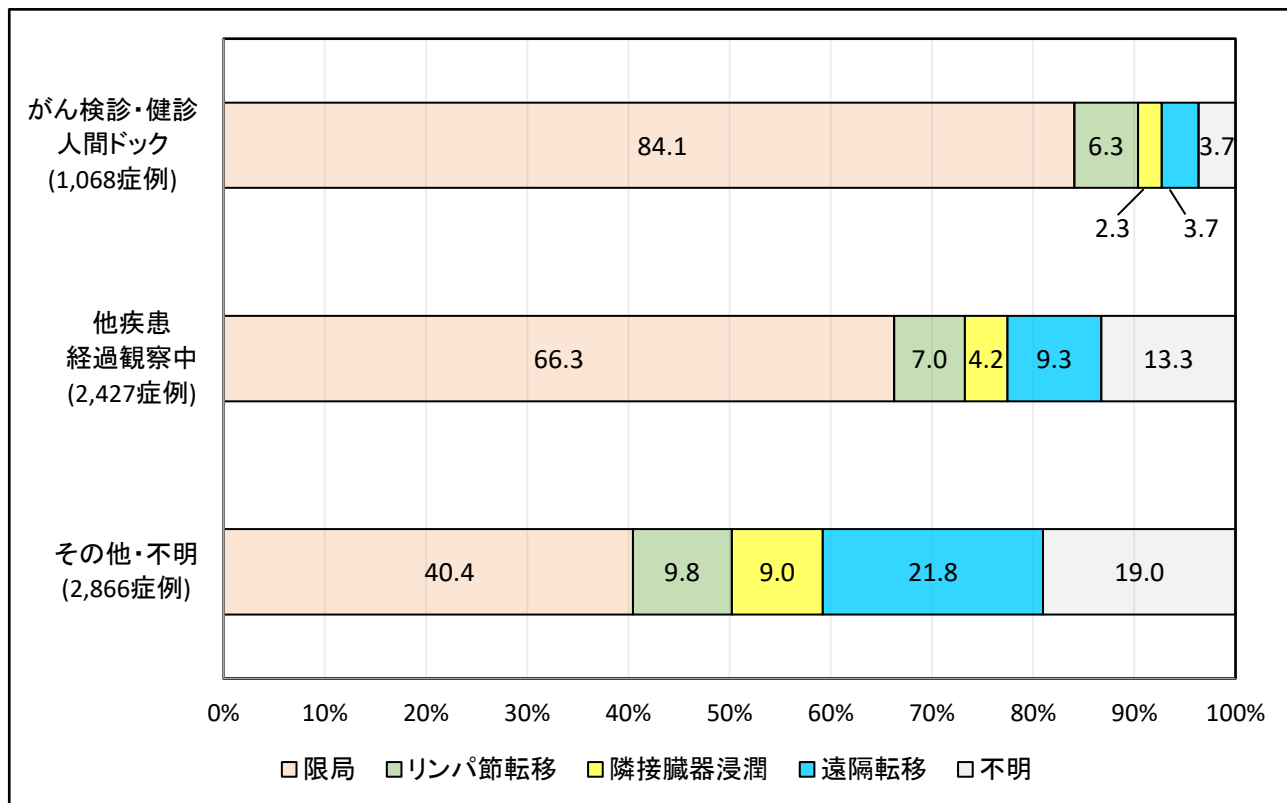
また、肝および肝内胆管がんでは、他疾患の経過観察中の割合が約60%である。これは、慢性肝炎及び肝硬変の治療中に発見されるケースが多いためであると考えられる。

※標準集計表の表4-A、4-Bから作成

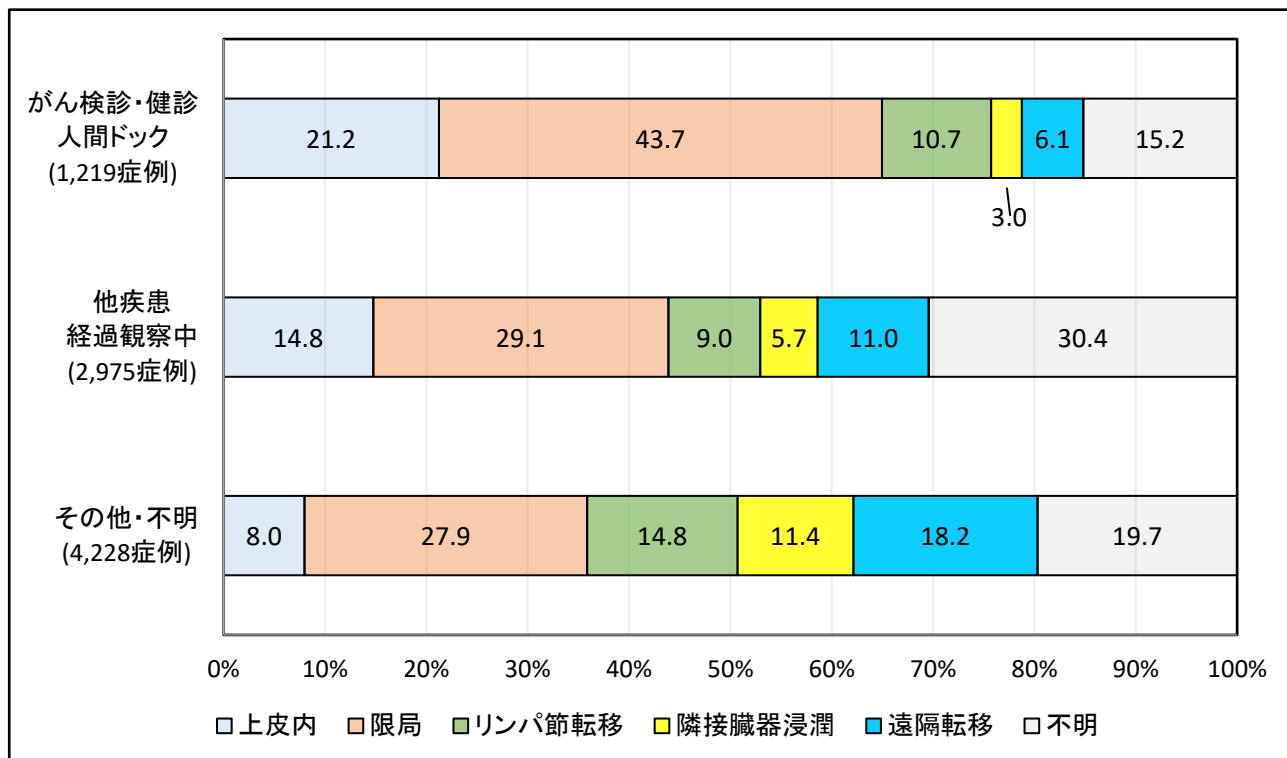
部位別・発見経緯別・病巣の拡がりの割合

和歌山県でがん検診が実施されている部位（胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部）別に「がん」が発見されるに至った経緯と「がん」の進行度（病巣の拡がり）の割合との関係性を調査した。ここで示すデータは、2017年～2021年診断分（5年分）のデータを利用した。

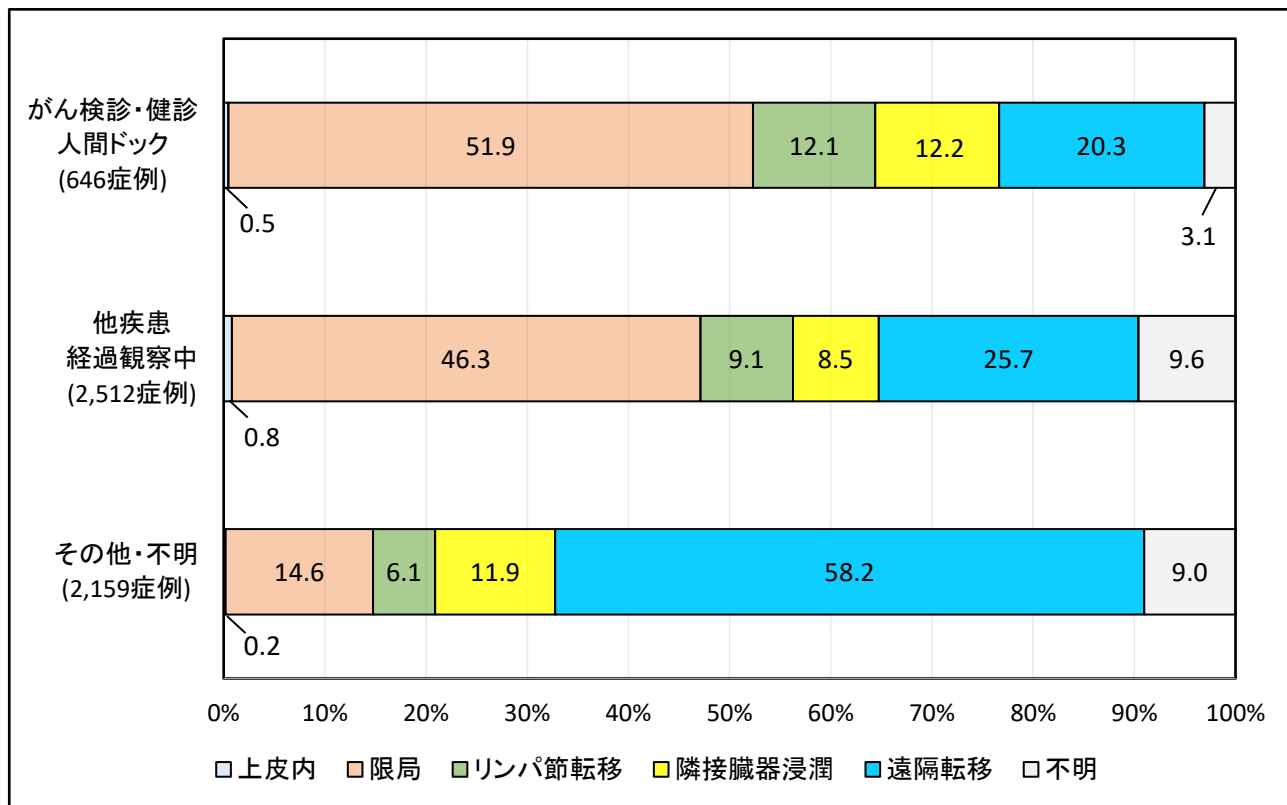
① 胃がん



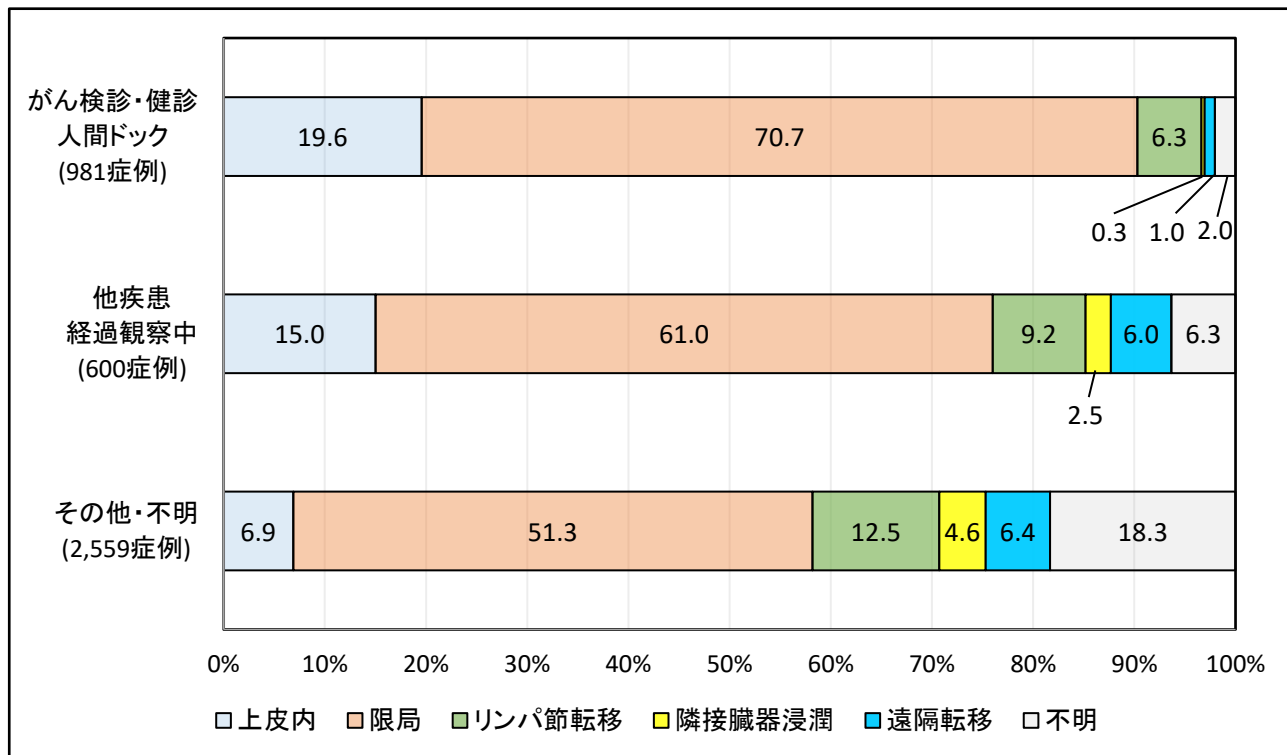
② 大腸がん



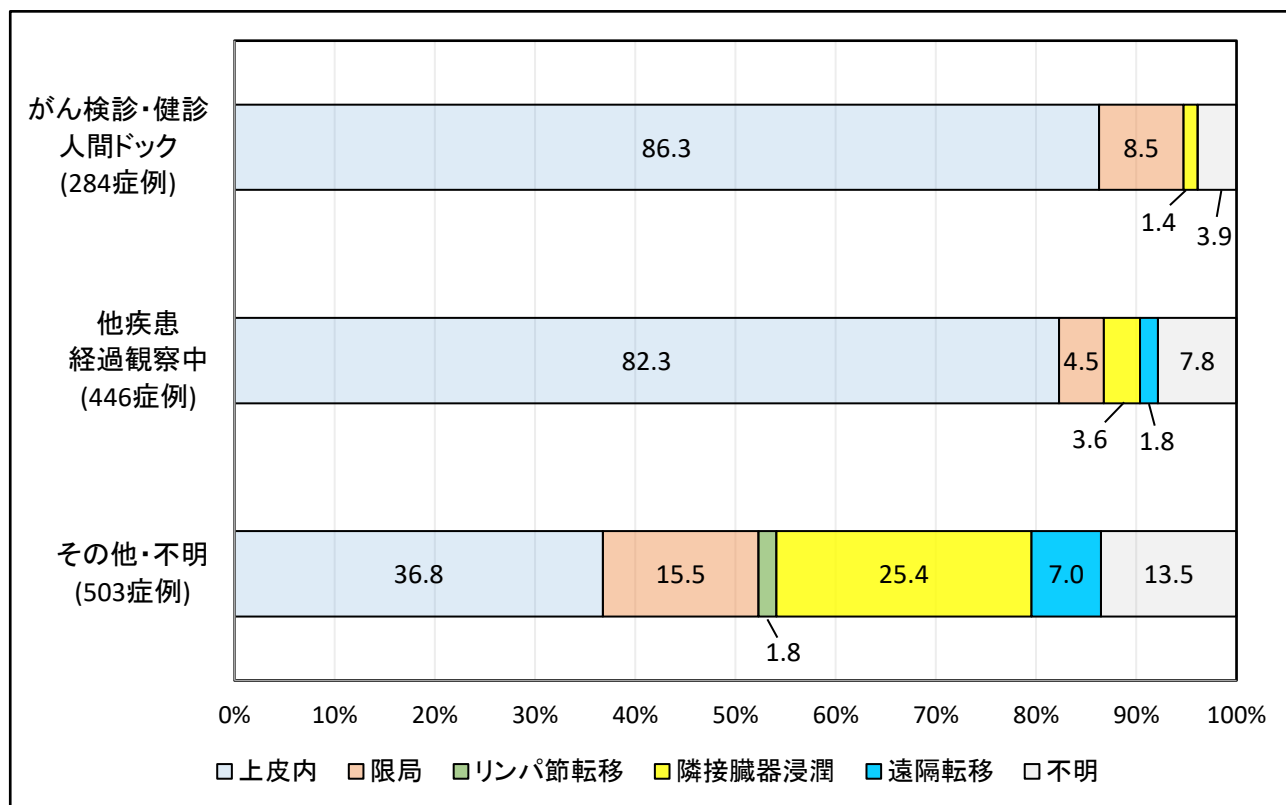
③ 肺がん



④ 乳がん



⑤ 子宮頸がん



※ 一般的に「早期がん」と言われる病巣の拡がりは、上皮内と限局のことを示す。

※ 胃がんの病巣の拡がりには「上皮内」は存在しない。

※ 発見経緯の「他疾患の経過観察中」とは、慢性疾患等で通院中に「がん」と診断されるに至った経緯のことを示す。

胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部のいずれにおいても、「がん検診・健康診断・人間ドック」で発見された場合は、「上皮内・限局」で診断される割合が高くなっている。

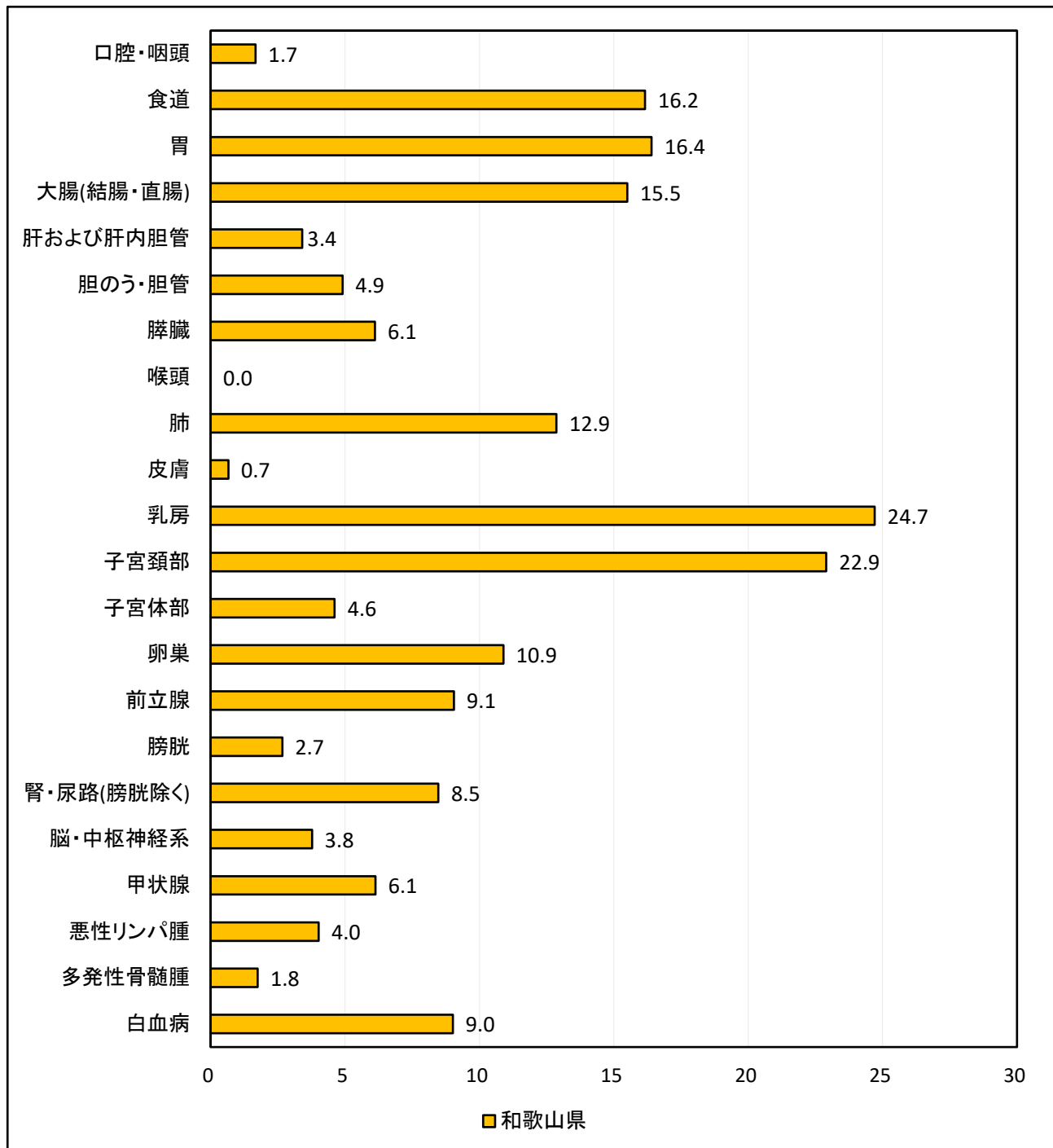
肺がんにおいては、【その他・不明】で発見された場合になると、「隣接臓器浸潤、遠隔転移」のがんが進行した状態で診断される割合が高くなっている。

なお、「その他・不明」には、何らかの自覚症状を自覚してから医療機関を受診するケースを含んでおり、いずれのがんにおいても最も多い発見経緯となっている。

以上のことから、がん検診や健康診断、人間ドックは、がんの早期発見に有効であることがわかる。

部位別・発見経緯別罹患率（％）男女計

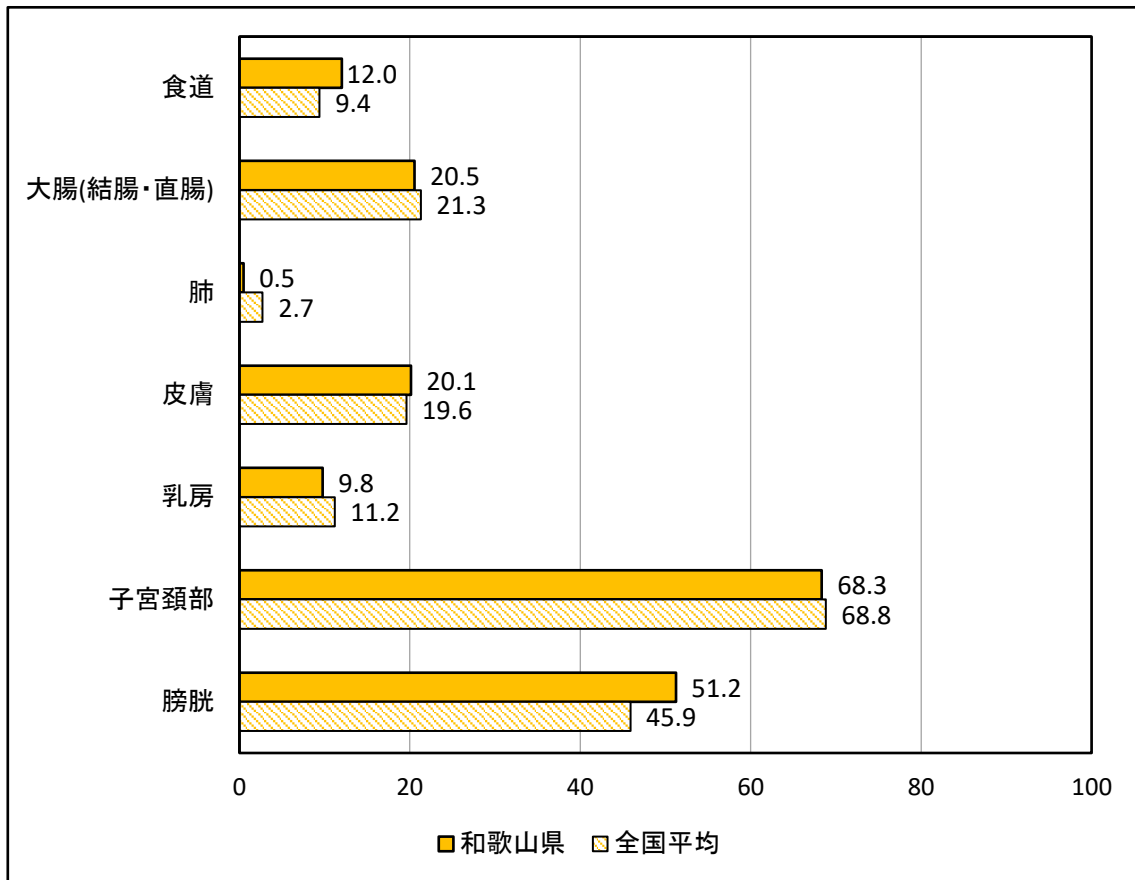
【発見経緯が「がん検診・健康診断・人間ドッグ」の割合】



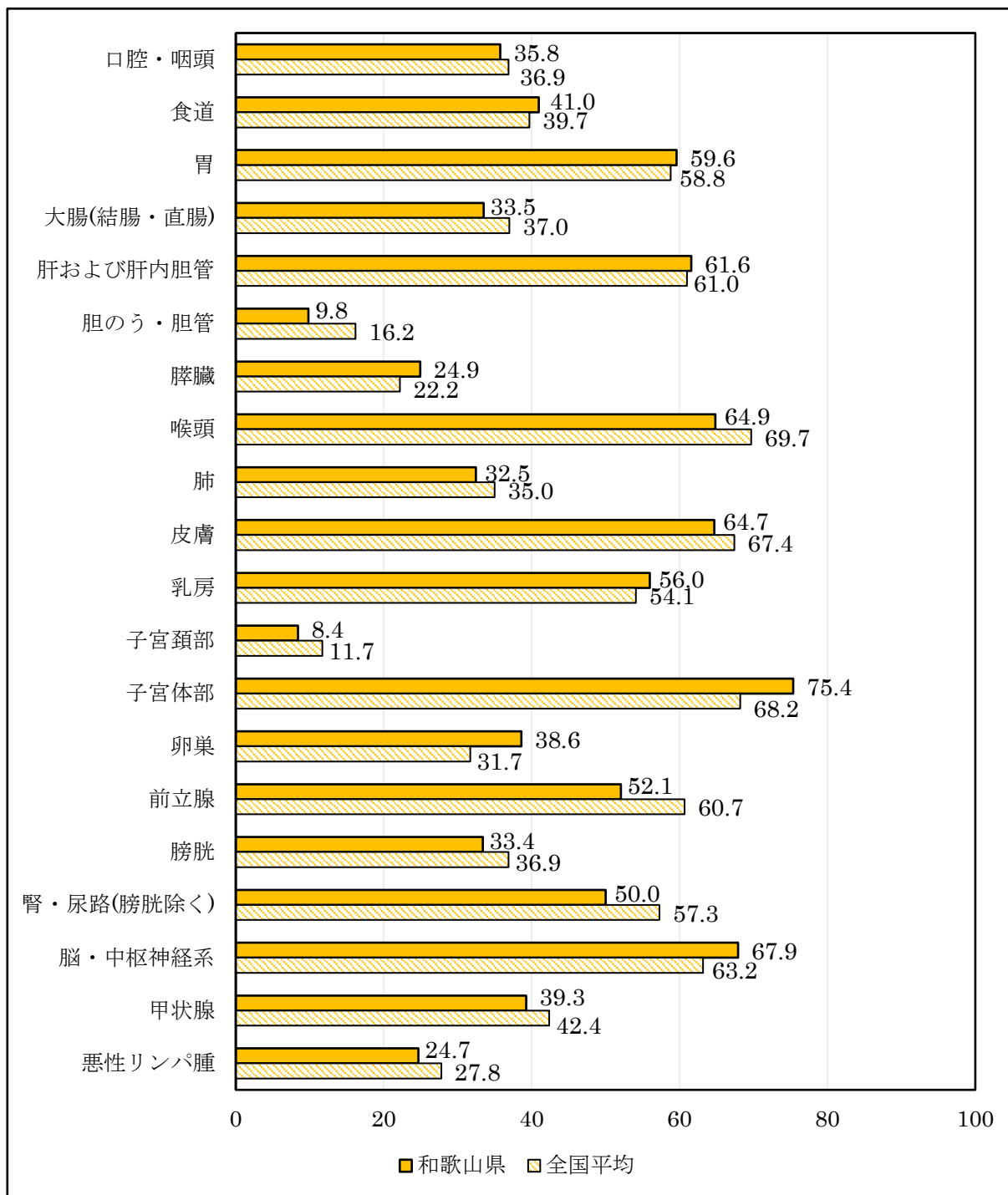
※標準集計表の表 4-A、4-B から作成

部位別・進展度（総合）分布（％）全国平均との比較

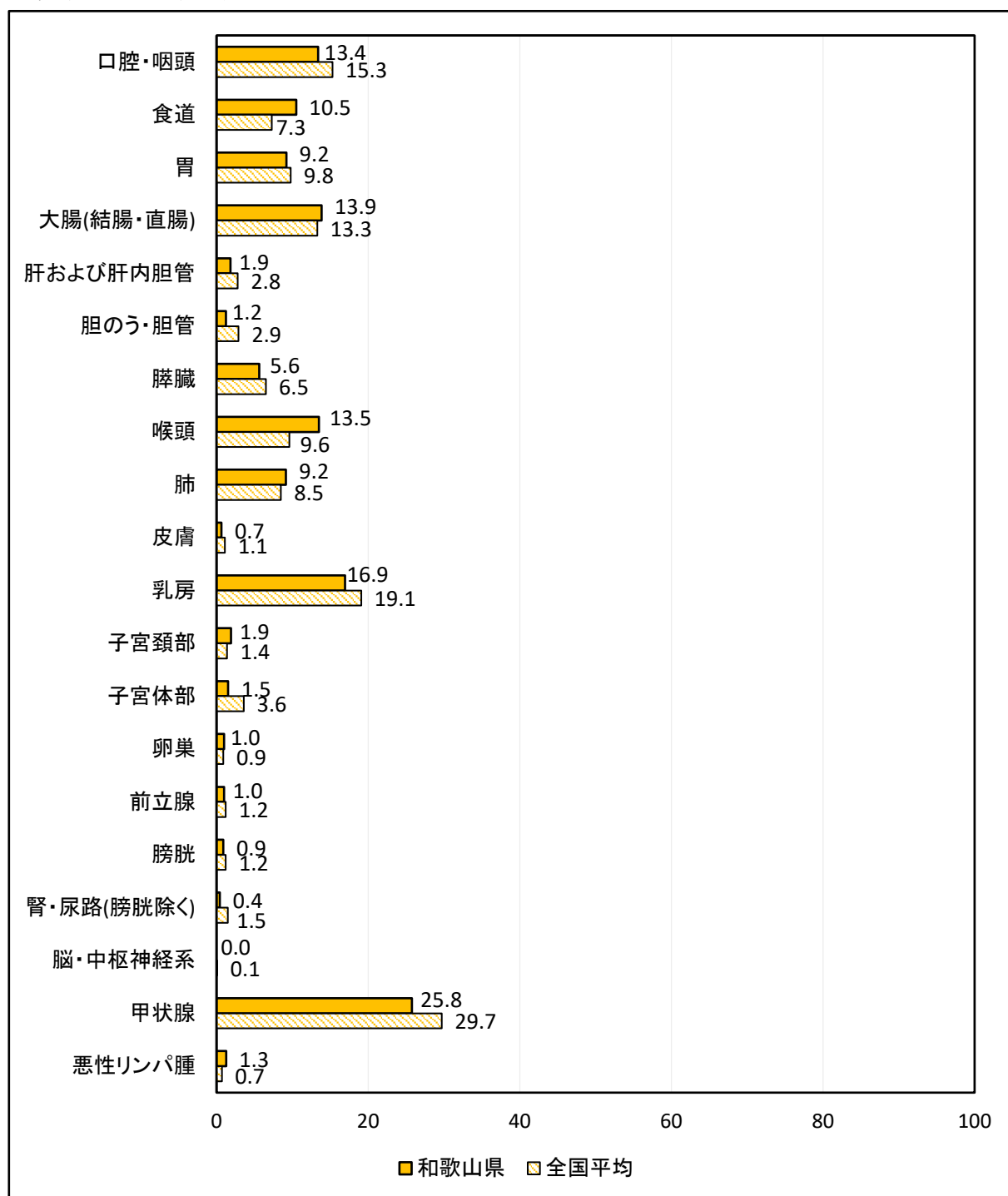
① 上皮内



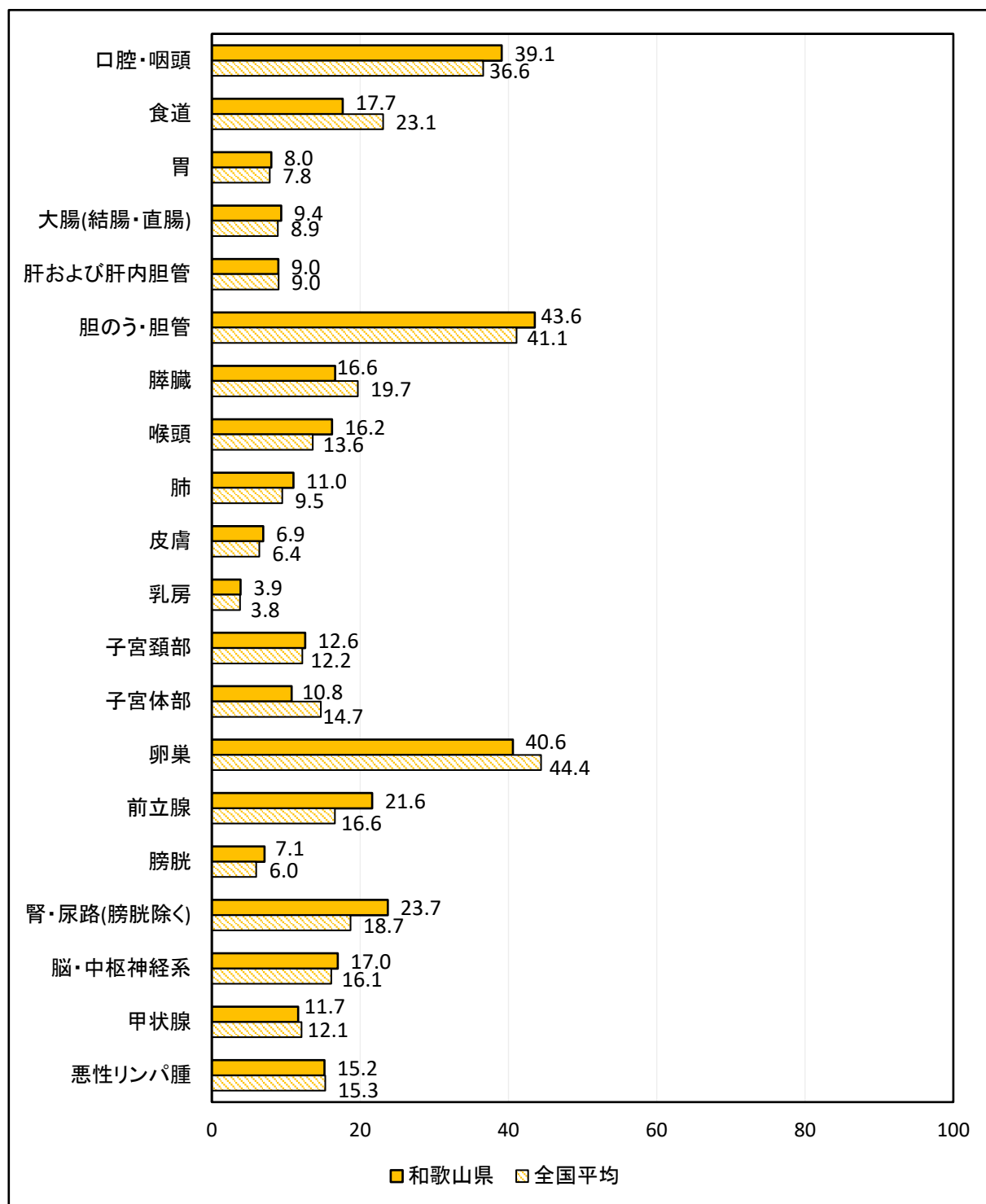
② 限局



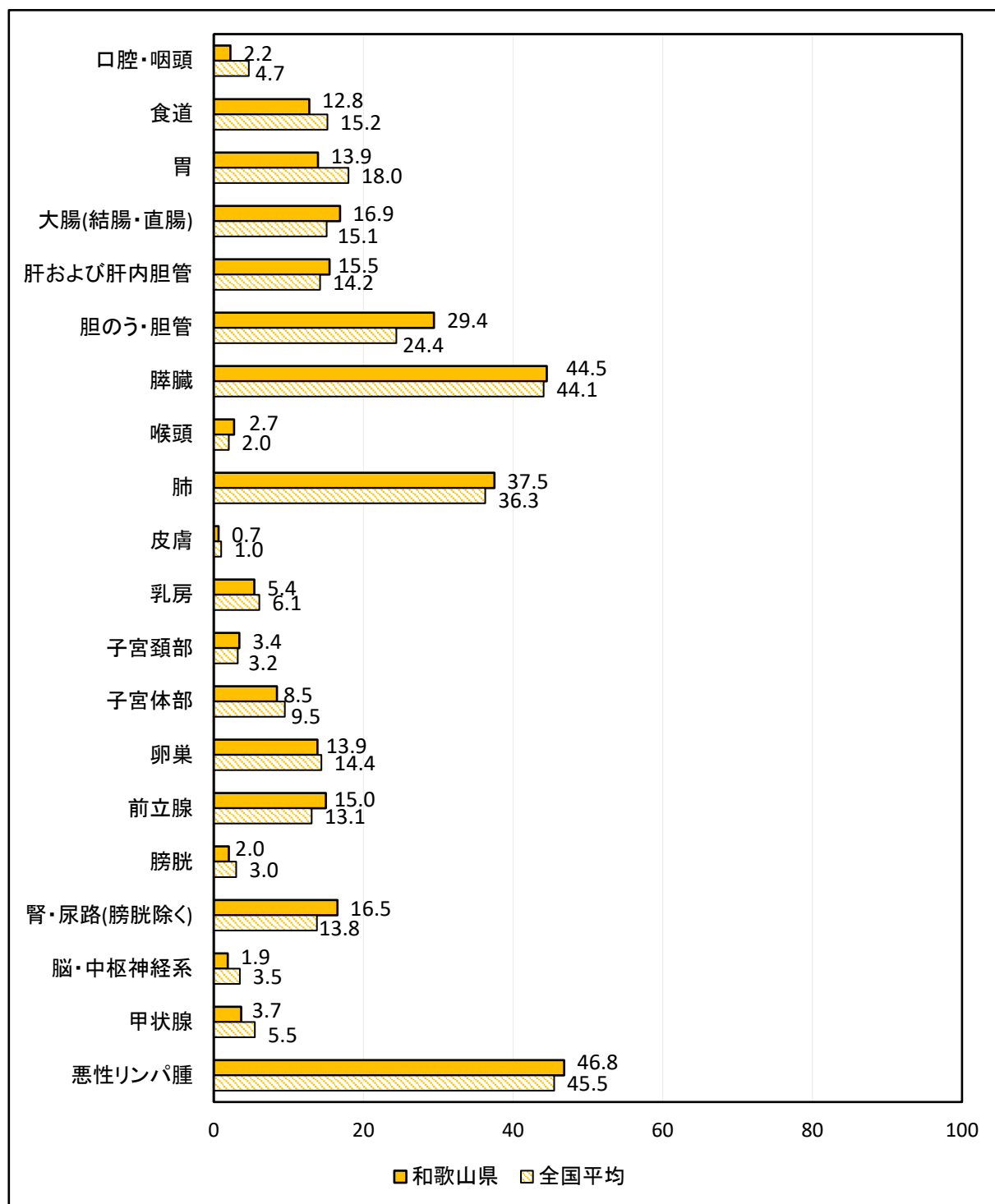
③ 領域リンパ節転移



④ 隣接臓器浸潤

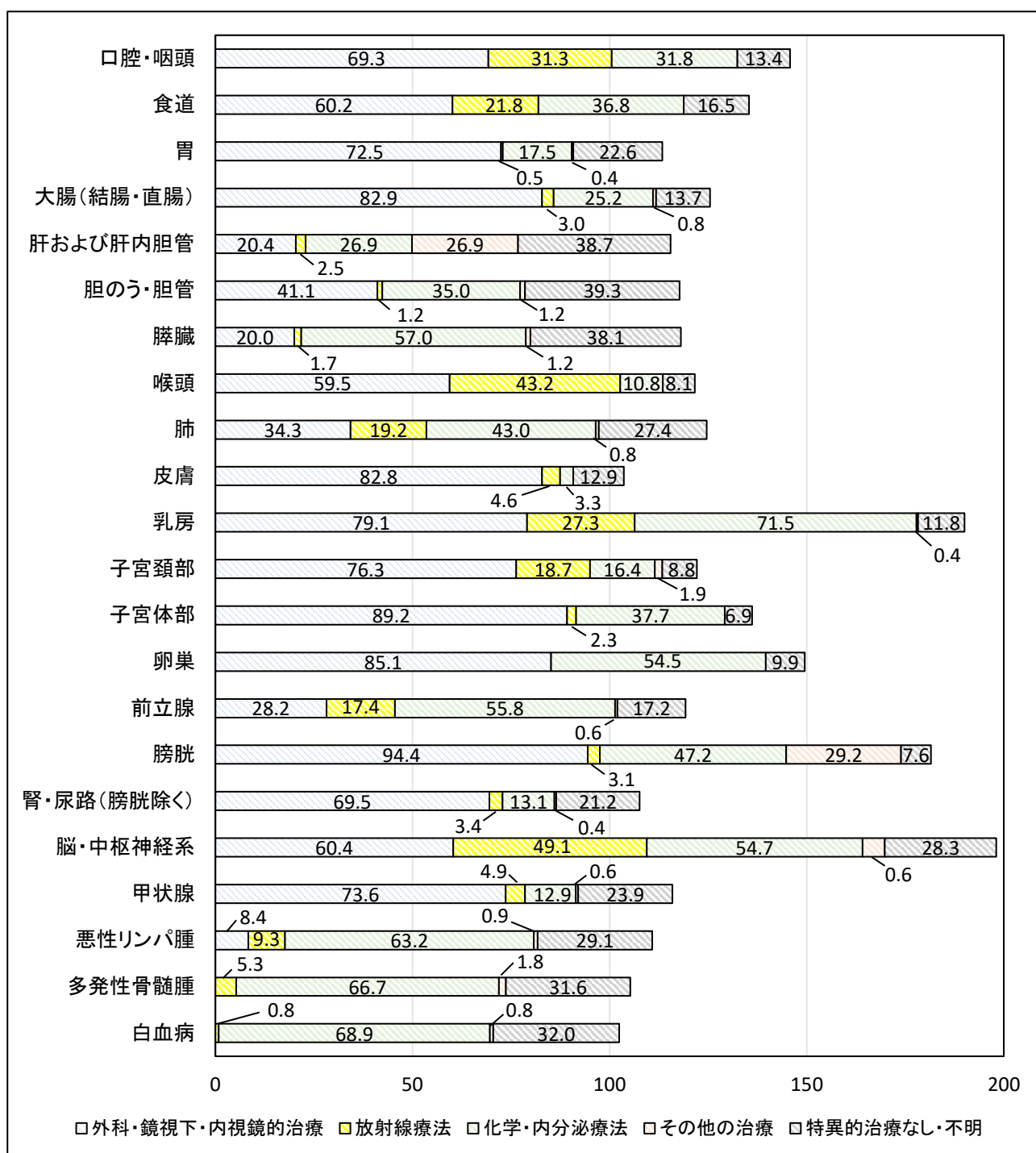


⑤ 遠隔転移



※標準集計表の表 5-1-A、5-1-B から作成

部位別・受療割合 (%)



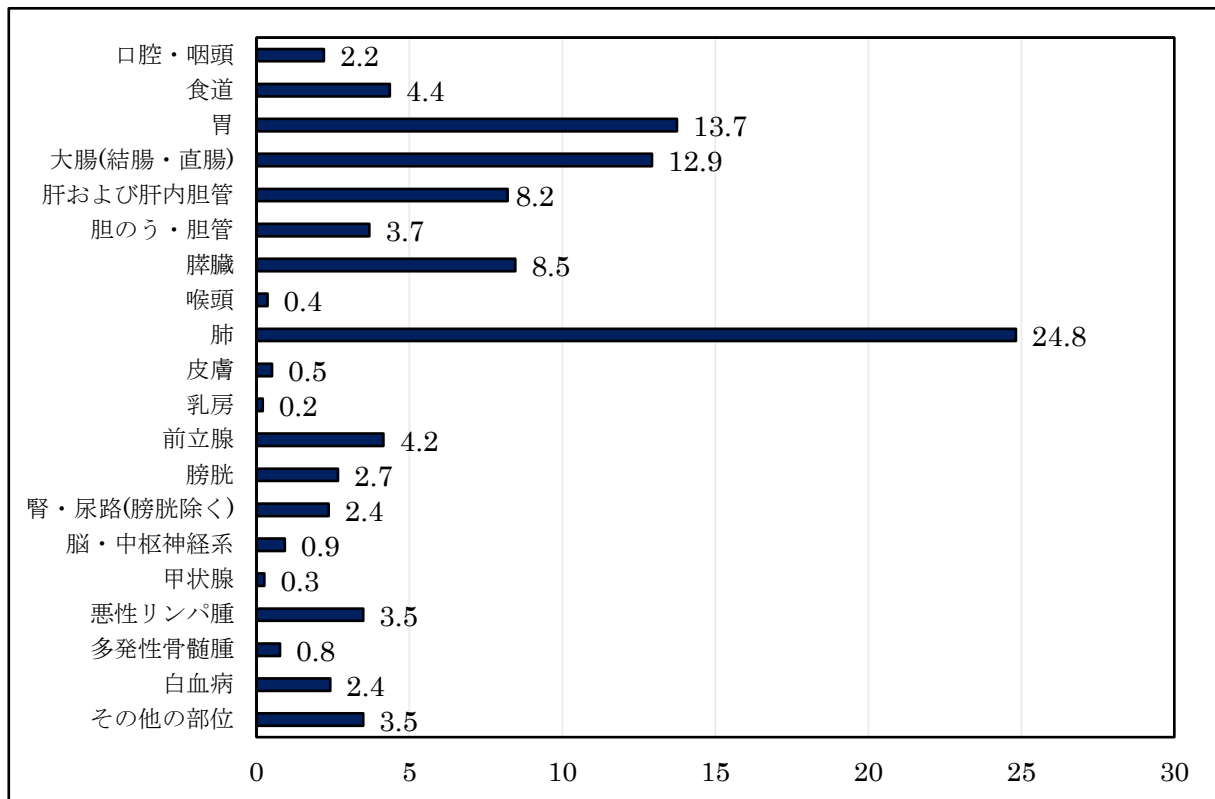
※重複を含むため 100%にならない。

受療割合で見ると、外科・鏡視下・内視鏡的治療の割合は高く、特に子宮体部がん、膀胱がん、卵巣がん、大腸（結腸・直腸）がん、皮膚がんが高くなっている。

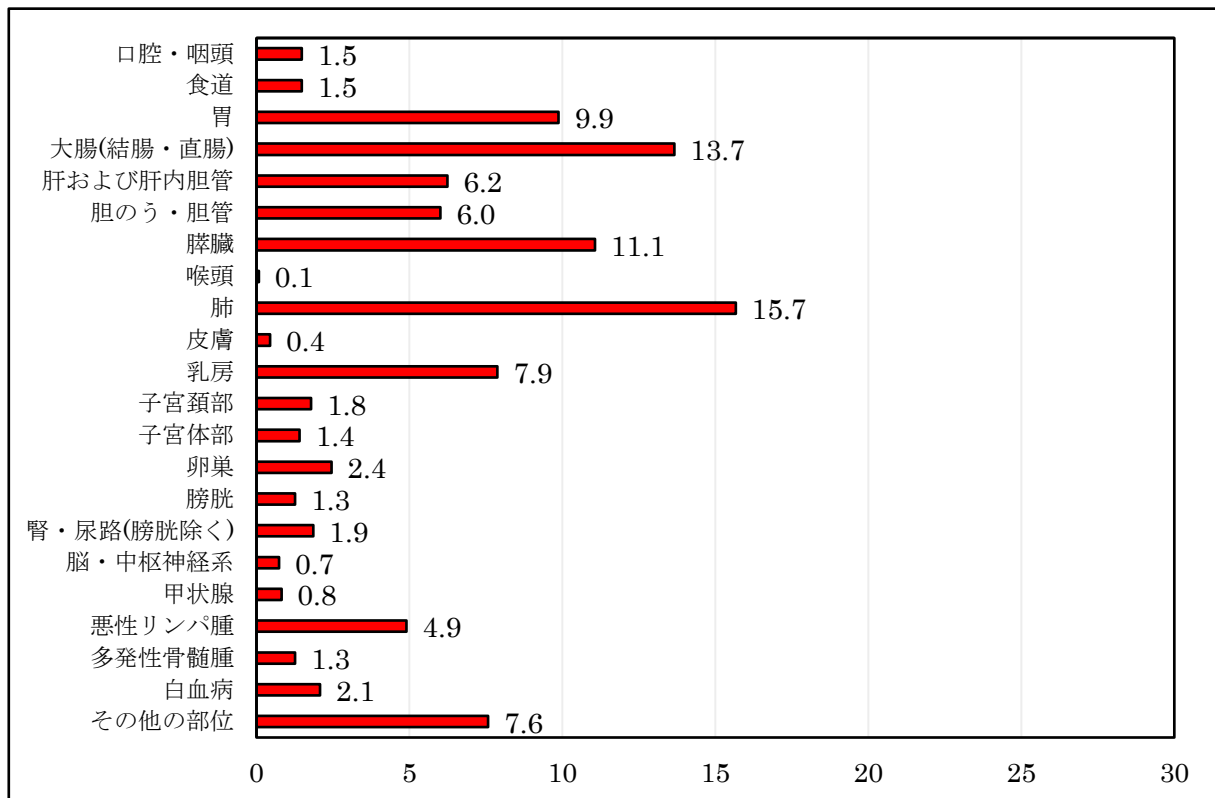
また、放射線療法は喉頭がん、脳・中枢神経系で高く、化学・内分泌療法は、多発性骨髄腫、乳がん、悪性リンパ腫で多く実施されている。

※ 標準集計表の表 6-A、6-B から作成

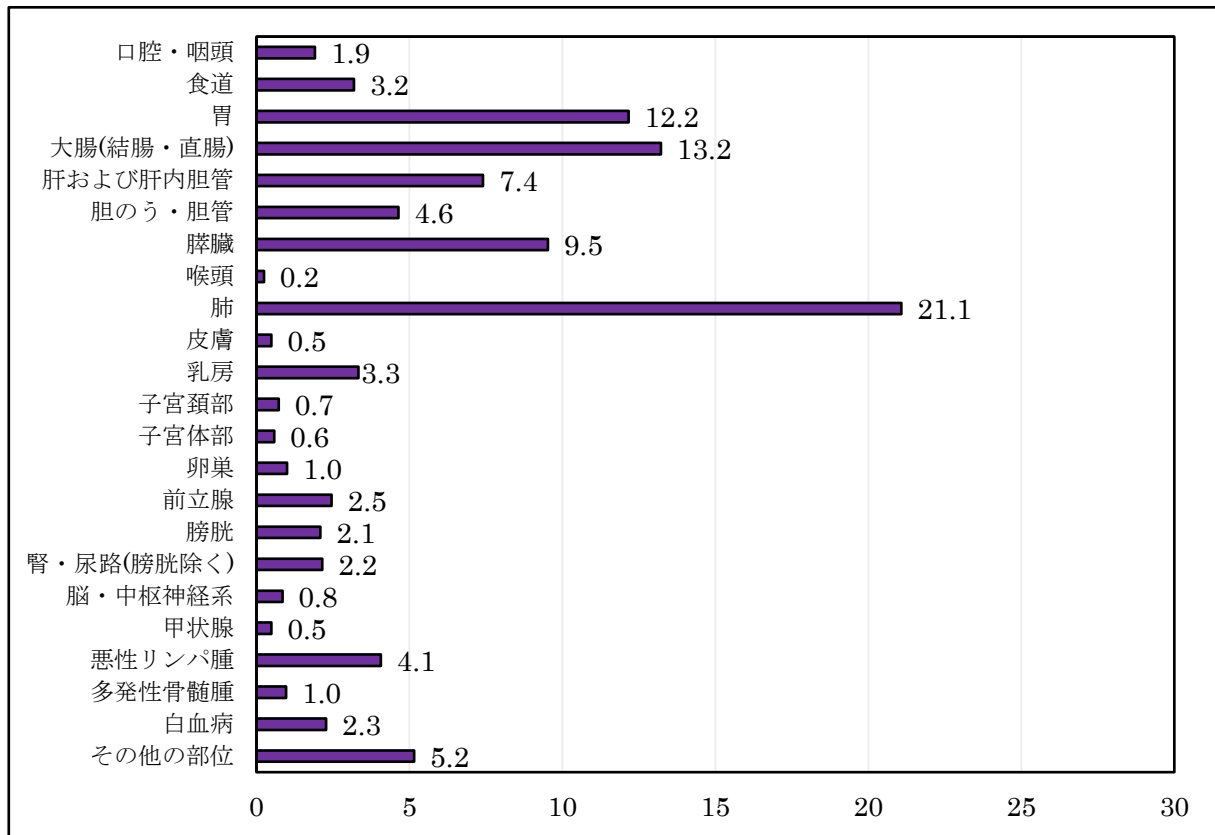
【男性】



【女性】



【男女計】

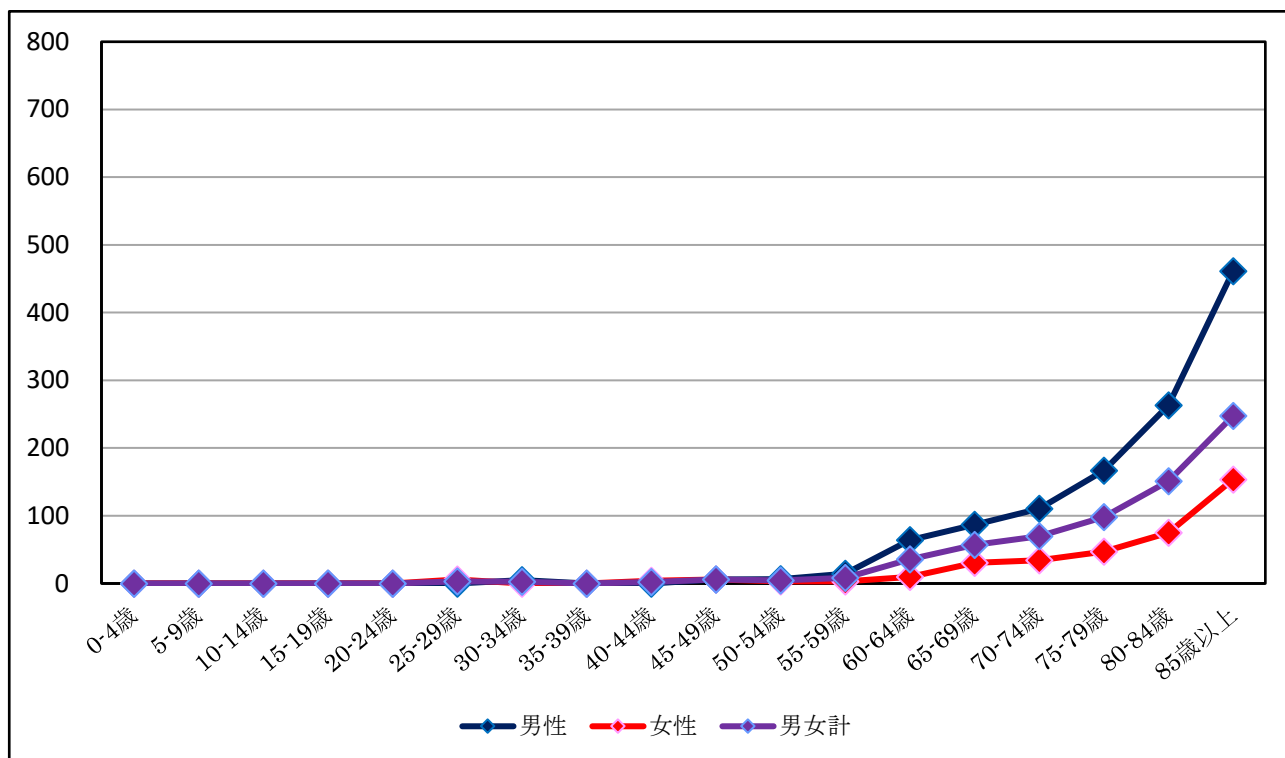


男性は肺がんが最も高く、次いで胃がん、大腸（結腸・直腸）がんが高くなっている。女性でも肺がんが最も高く、次いで大腸（結腸・直腸）がん、膵臓がんの順に高くなっている。男女計では、肺がんが最も高く、次いで大腸（結腸・直腸）がん、胃がんの順に高くなっている。

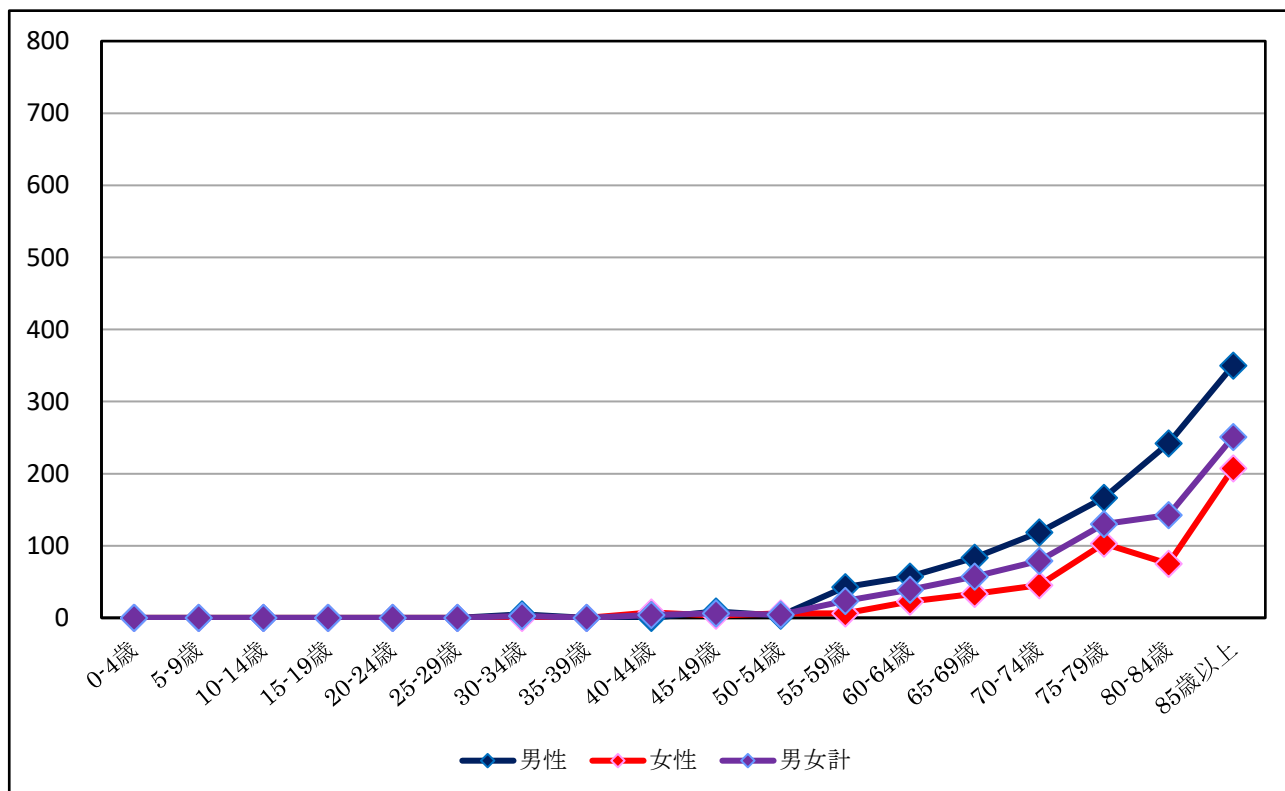
年齢階級別死亡率（人口 10 万対）：部位別、性別（主要部位）

※標準集計表の表 11 から作成

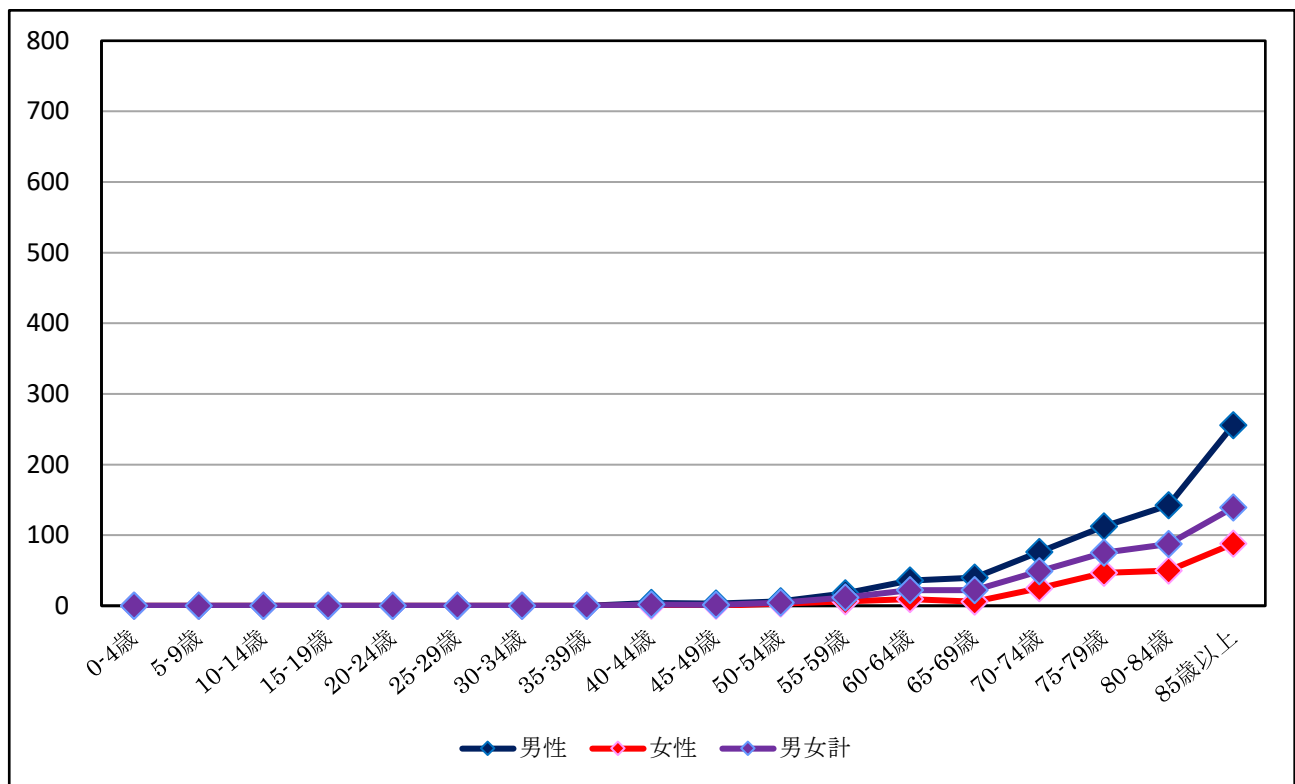
① 胃



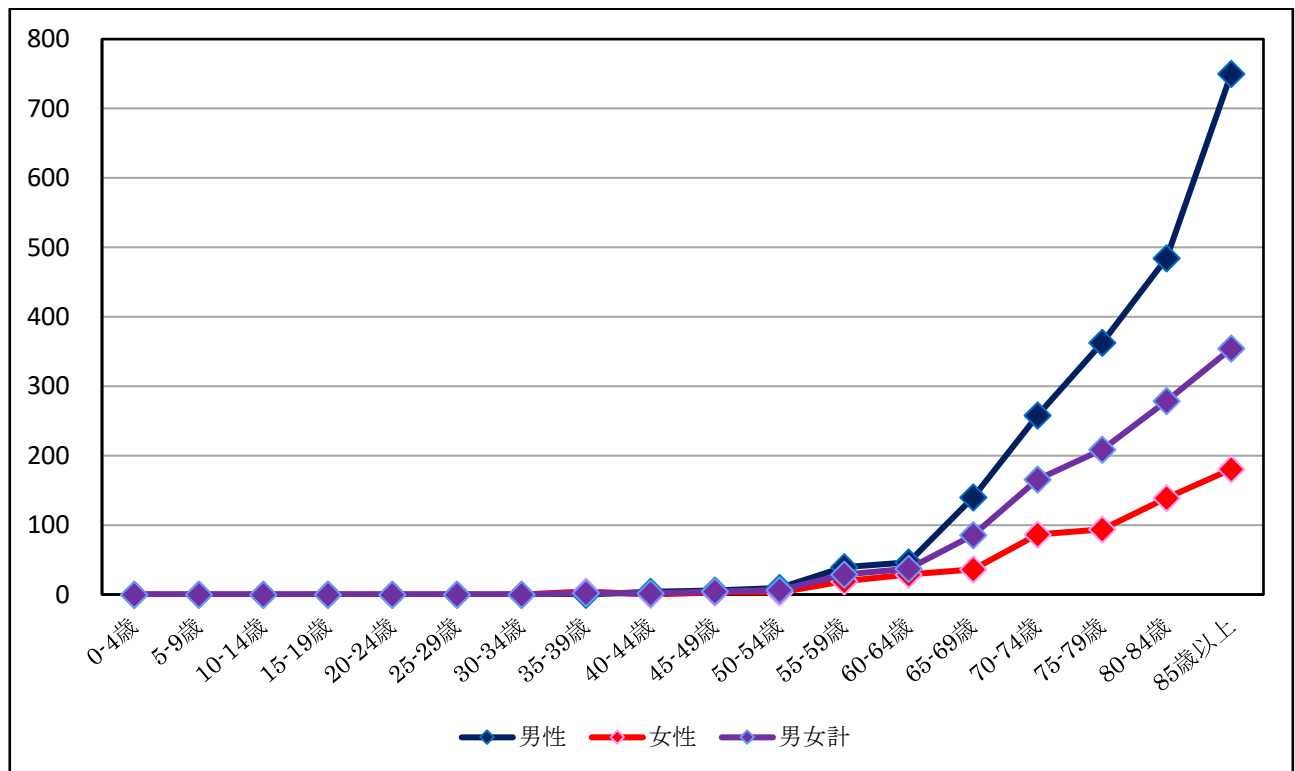
② 大腸（結腸・直腸）



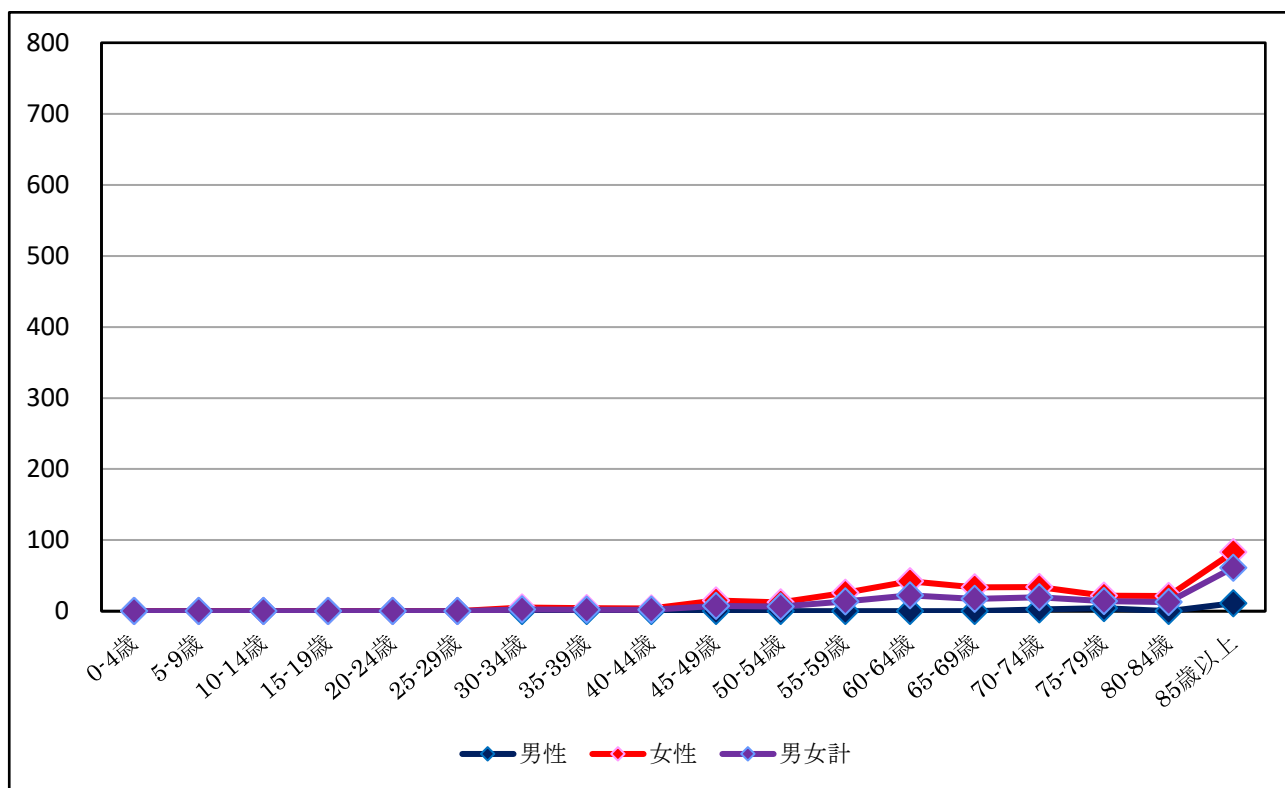
③ 肝および肝内胆管



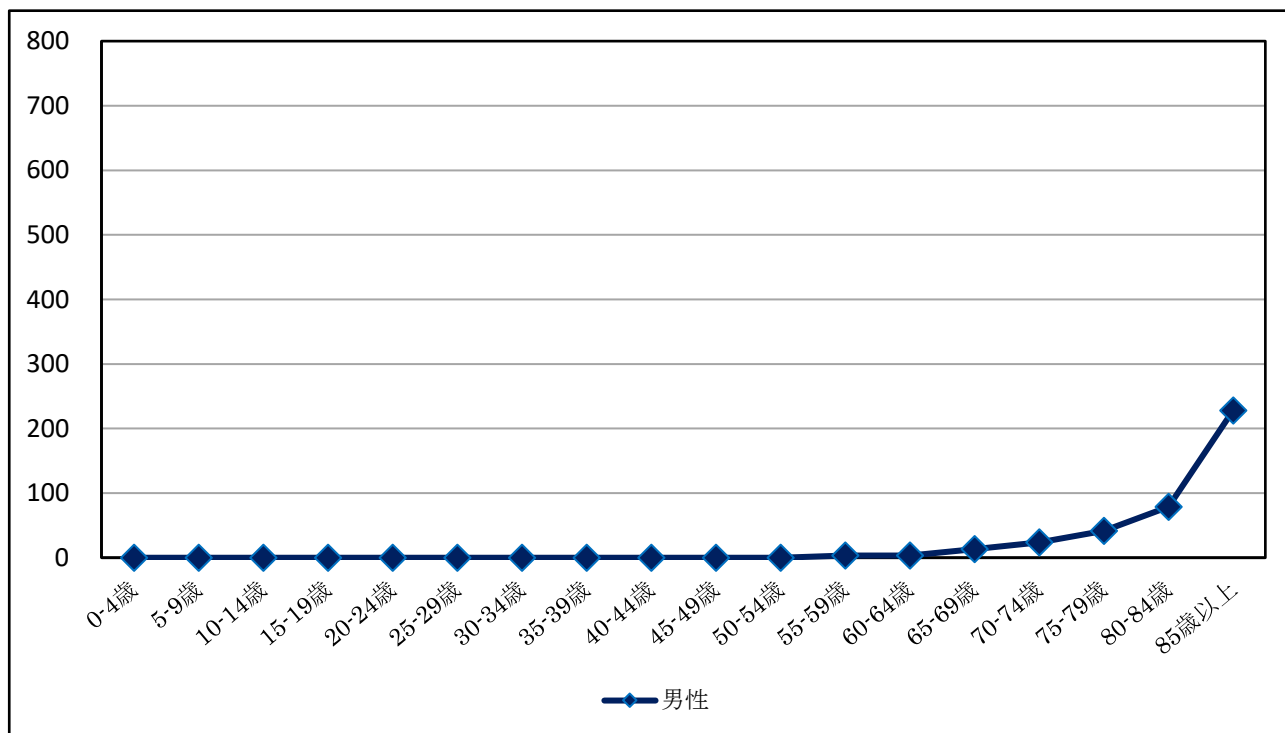
④ 肺



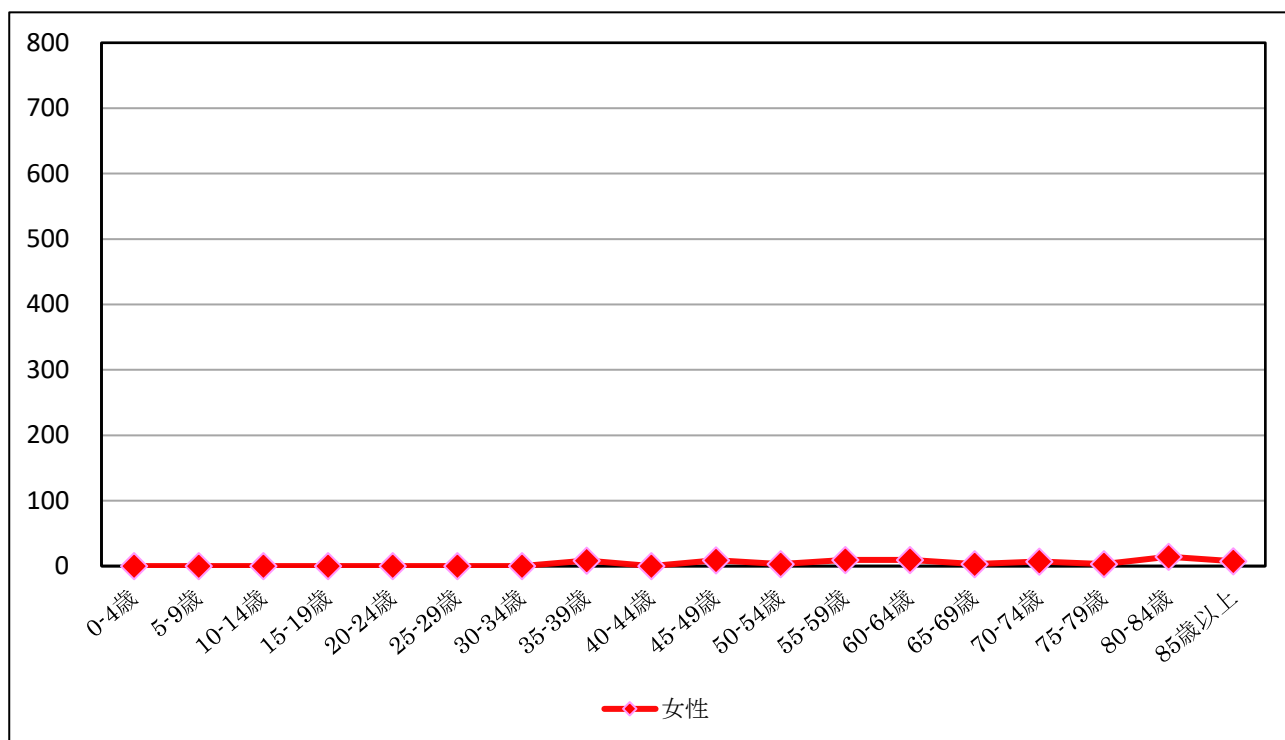
⑤ 乳房



⑥ 前立腺



⑦ 子宮頸部

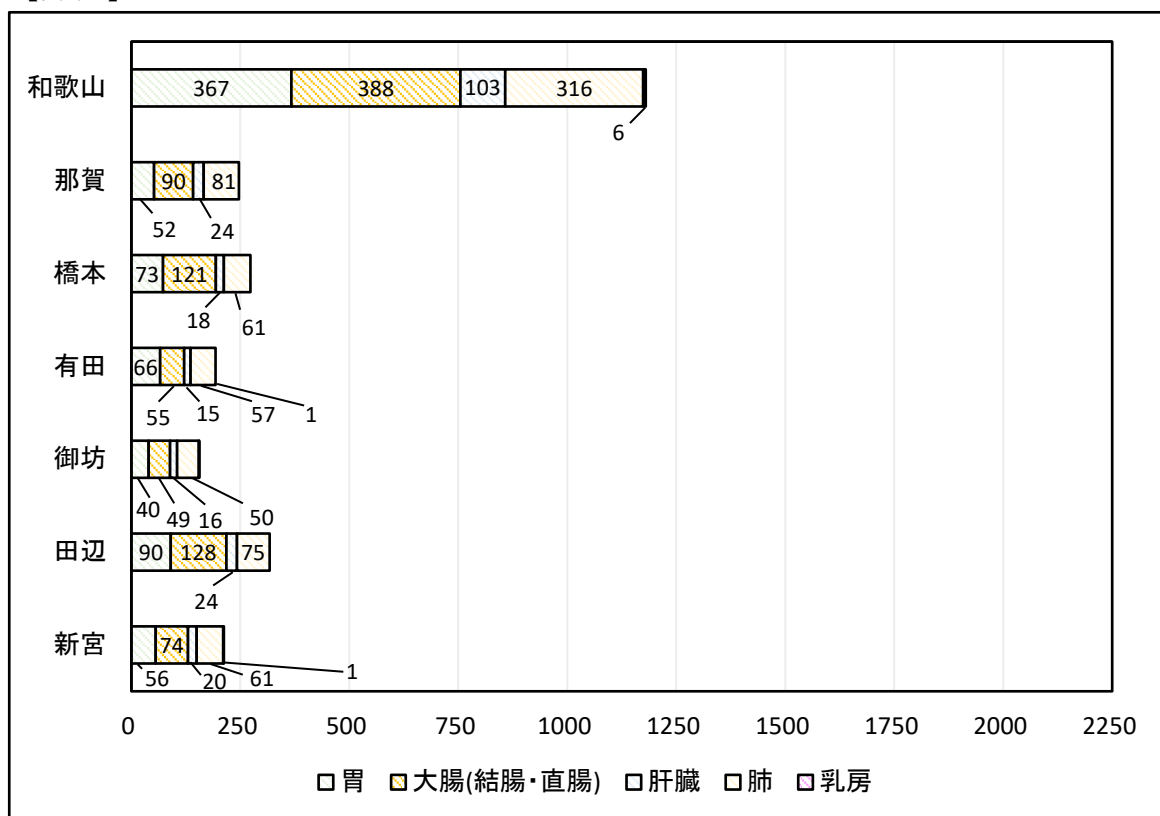


年齢階級別の死亡率では、男性では、胃がん、大腸（結腸・直腸）がん、肝および肝内胆管がん、肺がんが50代以上から死亡率が高くなっており、前立腺がんでは60代以上から死亡率が高くなっている。女性では、胃がん、大腸（結腸・直腸）がん、肺がんが50代以上から死亡率が高くなっており、肝および肝内胆管がんは70代から高くなっている。

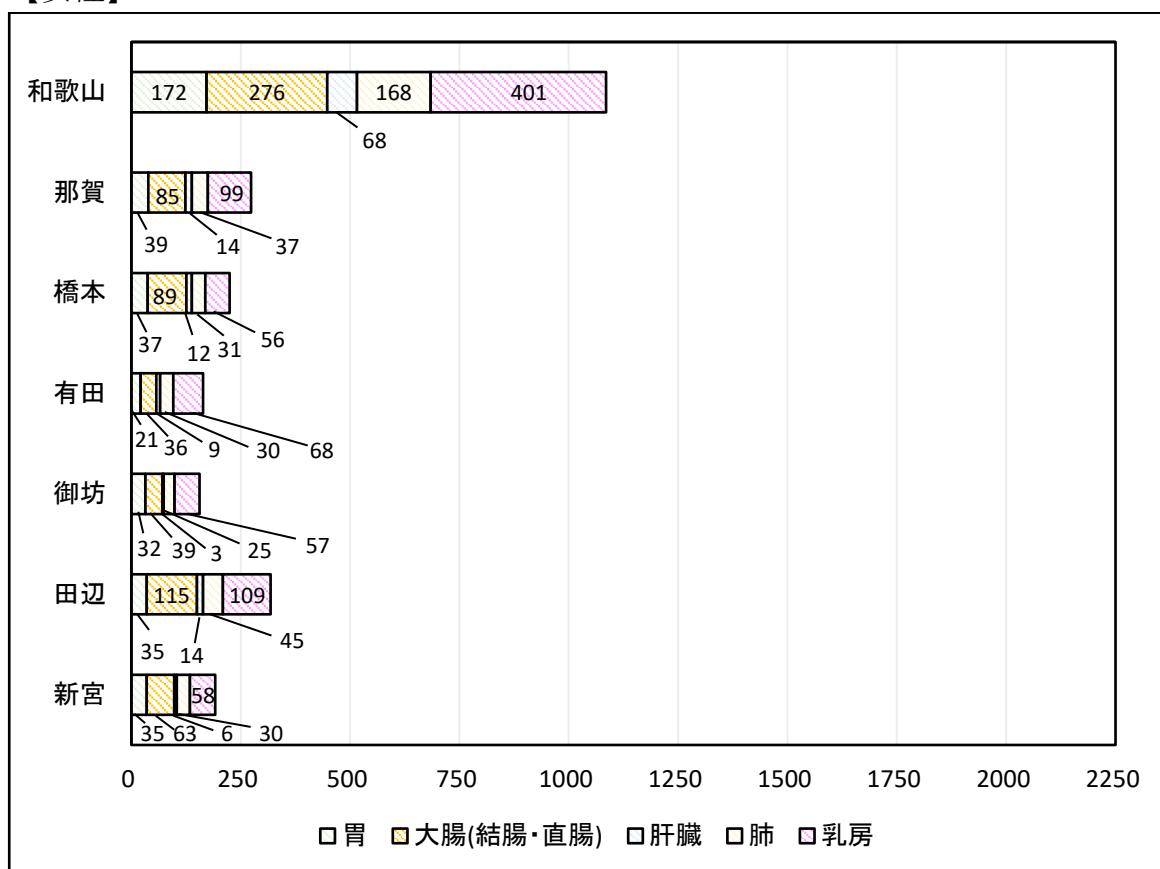
また、女性では乳がんの死亡率が40代から高くなっている。

医療圏別罹患数：部位別、性別（主要部位）

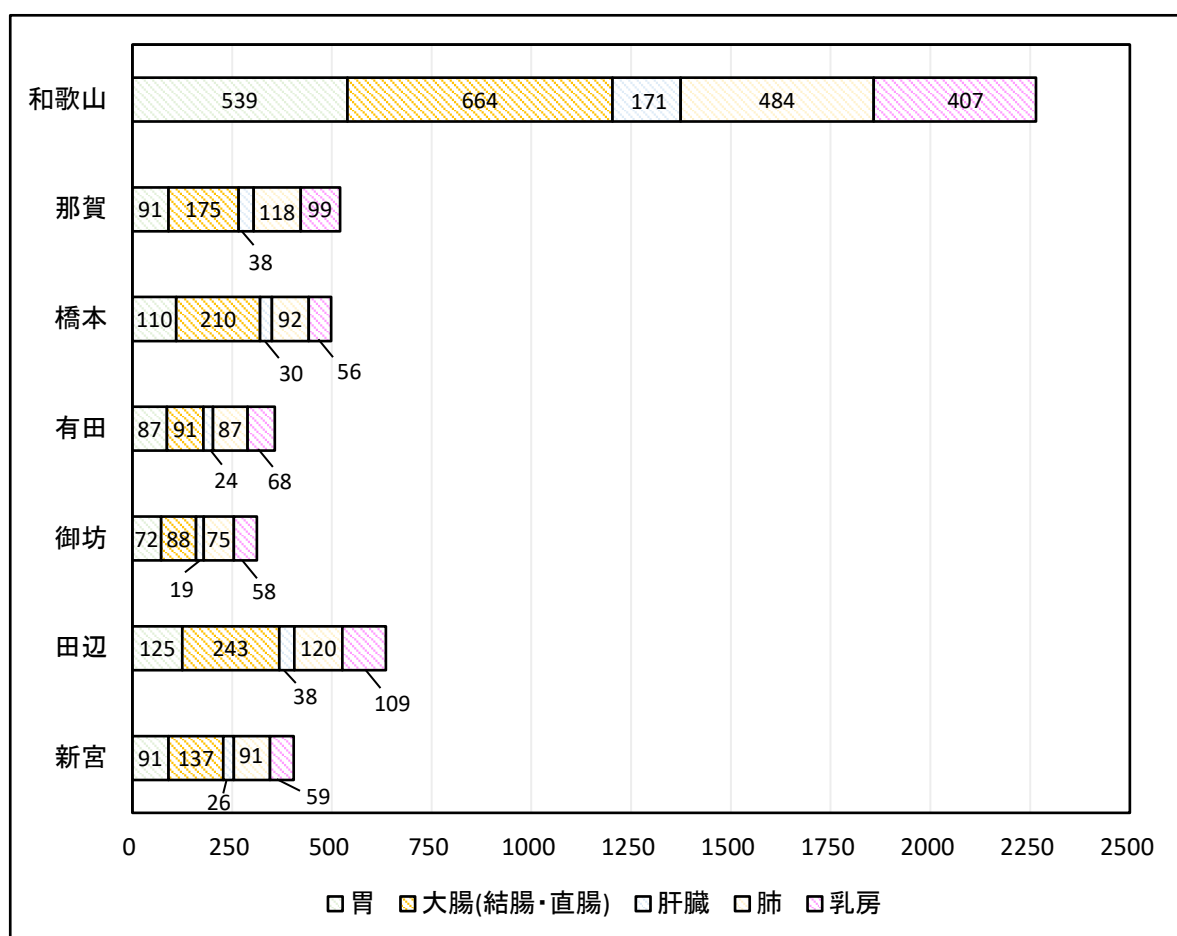
【男性】



【女性】



【男女計】



※ 医療圏別、保健所圏別罹患数：部位別、性別から作成